



自走マニキュアスプレッダ

取扱説明書

製品コード K93069 ・ K93070
型 式 JMS1230 ・ JMS1240

製品コード K93071
型 式 JMS1250

製品コード K93072 ・ K93073
型 式 JMS1730 ・ JMS1740

製品コード K93074
型 式 JMS1750

“必読” 機械の使用前には必ず読んでください。

スター農機株式会社

SPAR

はじめに

- ・このたびは、**スター**自走マニアスプレッタをお求めいただきありがとうございました。この取扱説明書は、正しい取り扱い方と日常の点検、整備について記載してあります。この取扱説明書およびエンジン取扱説明書をよくお読みになって、充分ご活用いただき、いつまでもご愛用ください。また、オプション装着の場合は各々の取扱説明書もごらんください。
- ・お読みになった後はいつでも取り出せるように保管し、わからないことがあったときにお読みください。
- ・自走マニアスプレッタを貸与または譲渡される場合には、取扱説明書も添付しておわたしてください。
- ・取扱説明書を紛失された場合は、お買上げの販売店にご注文ください。
- ・下記のマークのついた項目は、安全上、特に重要な項目ですので、必ず守ってください。



- ―― この項目を守らなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



- ―― この項目を守らなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



- ―― この項目を守らなかった場合、けがを負うおそれがあるものを示します。

- [取扱いの注意] ―― 操作上特に注意すべきことや、本機固有の事項ならびに、守らないと本機の性能、寿命に影響をおよぼす事項を示します。

- ・なお、品質、性能向上のため、部品の変更を行う場合があります。その際、本書の内容と一部異なる場合がありますのでご了承ください。

目 次

■ 安全に作業するために	3
■ サービスについて	12
■ 本製品の使用目的について	12
■ 仕様諸元	13
■ 付属部品	15
■ 開梱のしかた	16
■ 各部の名称	17
■ 安全銘板の張り付け位置	18
■ 運転と操作	19
1. スイッチとメータの取扱い	19
2. 運転装置の取扱い	21
■ 運転要領	24
1. 新車の運転	24
2. 作業前の点検	24
3. エンジンの始動	25
4. エンジンの停止	26
5. 発進	26
6. 停止	27
7. 変速	27
8. 旋回	27
9. 坂道走行	28
10. ディスクブレータのチルト操作	28
11. 散布制御部品について	29
運転中の注意事項	30
■ 堆肥散布作業	31
1. 堆肥の積み込み	31
2. 散布量の調節	31
3. 散布方法	34
■ 格納	35
■ トラックによる運搬	36
1. 搭車	36
2. 降車	37
■ 点検と整備	38
1. ボルト、ナットのゆるみ	38
2. 車体の損傷	38
3. クラッチの調整	38

4. 操向レバーの調整	39
5. ブレーキペダルの調整	39
6. Vベルトの張り	39
7. ローラチェーンの張り	40
8. 散布クラッチの調整	40
9. クローラの調整	41
10. 転輪	41
11. フロアコンベアチェーンの張りと交換	41
12. フロアコンベアギアボックスの調整	42
13. フロアコンベアシャーピンの交換	42
14. 燃料ホース	43
15. 電気系統	43
16. エンジン	45
17. 給油脂類	46
18. 点検整備基準	48
■ 故障と対策	49

■安全に作業するために

ここに記載されている注意事項を守らないと死亡を含む傷害事故や、機械の破損を生じるおそれがあります。

●全般の注意事項



警告

こんな時は運転しない

過労，病気，薬物の影響，その他の理由により
作業に集中できないとき。

酒を飲んだとき。

妊娠しているとき。18才未満のひと。

★守らないと

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



警告

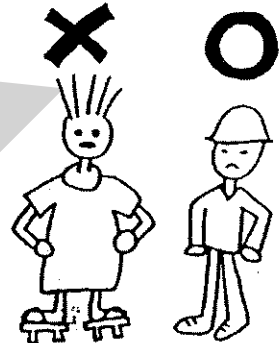
作業に適した服装をする

すべりやすいはきもの、だぶついた服装、
腰てぬぐい等は禁止です。

ヘルメット、滑り止めのついた靴等、作業に
適した服装をしてください。

★守らないと

機械に巻き込まれたり、転倒してけがをするおそれがあります。



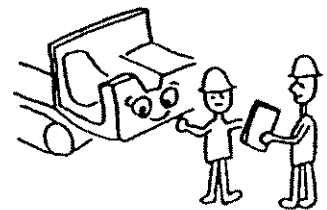
警告

機械を貸す時は取扱いを説明する

取扱い方法をよく説明し、作業前に
「取扱説明書」を必らず読むように
指導してください。

★守らないと

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



警告

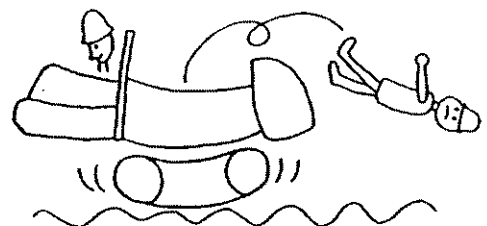
運転者以外に人を乗せない

乗車定員は1名です。

荷台等に人を乗せないでください。

★守らないと

転落事故等思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。





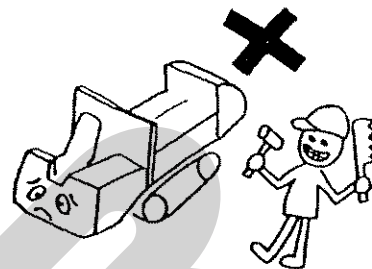
警告

機械の改造禁止

指定以外のアタッチメントを取り
付けないでください。
改造をしないでください。

★守らないと

事故，けが，機械の故障をまねくおそれがあります。



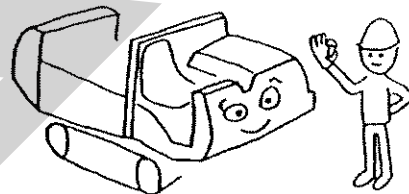
注意

日常点検，定期点検整備を受ける

日常点検を行ってください。
定期点検を受けてください。

★守らないと

整備不良による事故，けが，機械の故障をまねくおそれがあります。



注意

公道走行禁止

道路運送車両の認定を受けていません。
公道の乗車走行はできません。

★守らないと

道路交通法違反です、事故を引き起こすおそれがあります。

●作業前の注意事項



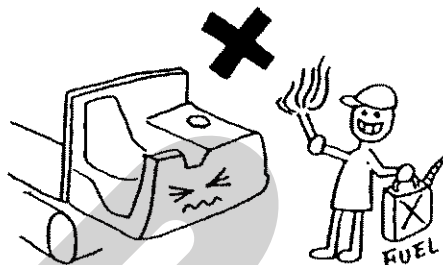
危険

燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時はくわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

★守らないと

燃料に引火し、火災をおこすおそれがあります。



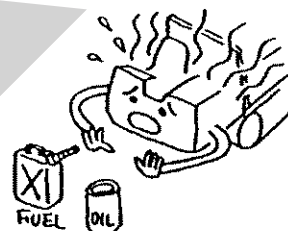
危険

給油、注油はエンジンがさめてから

エンジン回転中や、停止直後は絶対に給油、注油しないでください。

★守らないと

燃料等に引火し、火災をおこすおそれがあります。



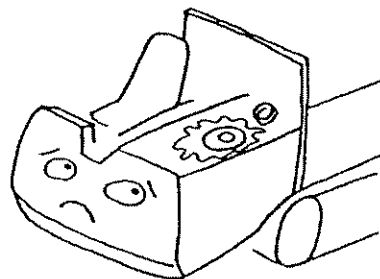
危険

燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふきとる

給油したときは燃料キャップを確実にしめ、こぼした場合はきれいにふきとってください。

★守らないと

火災事故を引き起こすおそれがあります。



危険

燃料もれに注意

燃料ホース等の破損があると燃料もれをおこします。必ず点検してください。

★守らないと

火災事故を引き起こすおそれがあります。





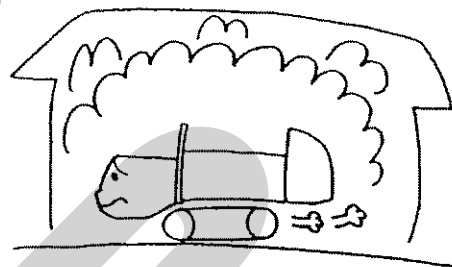
警告

換気の悪い場所でエンジンをかけない

排気ガスは有害です。
換気の悪い車庫や屋内で
エンジンを始動しないでください。

★守らないと

排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故になるおそれがあります。



警告

エンジンの始動は必ずシートにすわって行う

エンジンの始動は必ずシートに
すわり、周囲の安全を確認し、
いつでも運転操作ができる状態で
行ってください。

★守らないと

正常な運転ができずに傷害事故を引き起こすおそれがあります。



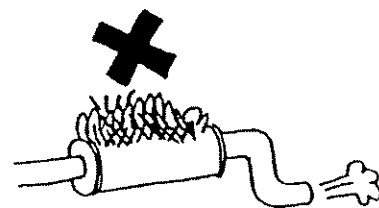
警告

マフラー、エンジン回りのゴミは取り除く

マフラーやエンジンまわりに
わらくず、ゴミが付着していないか
作業前に点検してください。

★守らないと

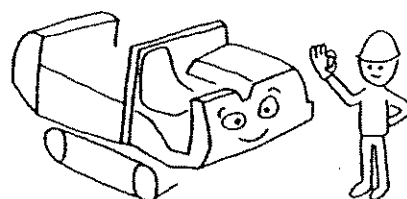
火災事故を引き起こすおそれがあります。



注意

作業前点検を行う

作業前に点検してください。
車体に異常ないか
エンジンオイル、冷却水は充分か

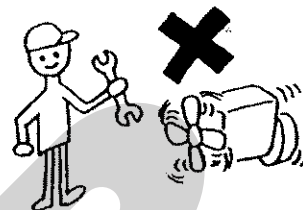




注意

点検整備中はエンジン停止

点検，整備，またはそうじするときは
必ずエンジンを停止してください。



★守らないと

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

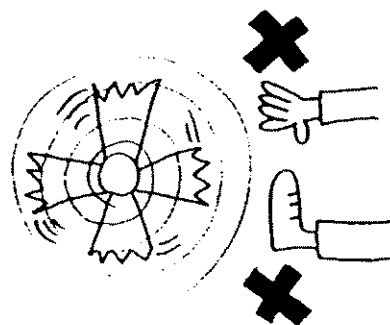
●作業時の注意事項



危険

回転中のピータには近づかない

回転中のピータには絶対に
近づかないでください。



★守らないと

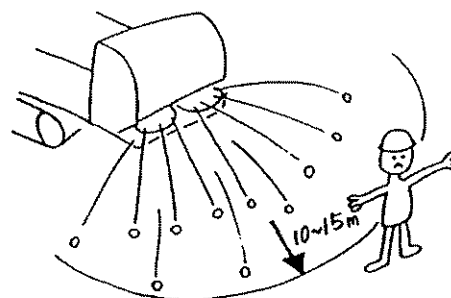
巻き込まれ、死亡事故を引き起こすおそれがあります。



危険

堆肥散布範囲は立入り禁止

堆肥や、堆肥の中の石などが
飛散するので、後方および左右
10～15mには人を立入らせ
ないでください。



★守らないと

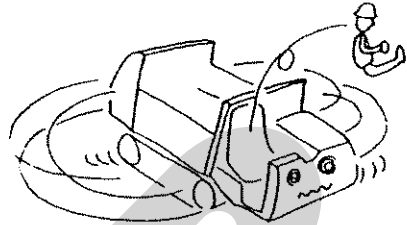
人に当たって死亡や傷害事故を引き起こすおそれがあります。



警告

高速での急旋回はしない

高速走行中は急旋回しないで
ください。



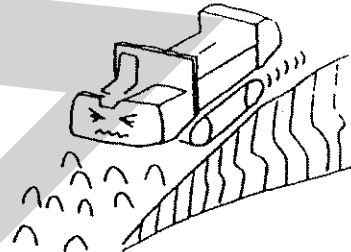
★守らないと
転落や接触により傷害事故を引き起こすおそれがあります。



警告

傾斜地や悪路は低速で走行する

傾斜地や悪路では低速で
走行してください。



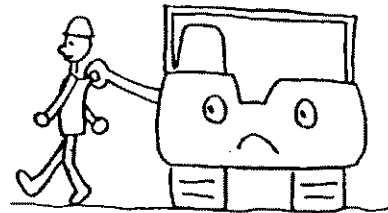
★守らないと
傷害事故を引き起こすおそれがあります。



警告

機械から離れる時はエンジン停止

機械から離れる時は必ず散布レバーを
「切」にしたのちエンジンを停止して
ください。



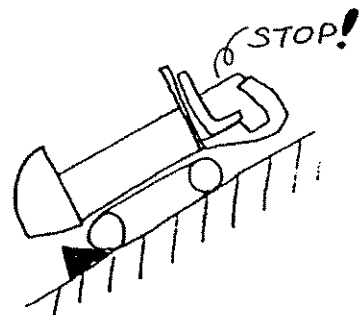
★守らないと
暴走事故等を引き起こすおそれがあります。



警告

傾斜地での駐停車は必ずエンジン停止

傾斜地で駐停車する時は必ずエンジンを
停止し、駐車ブレーキをかけ、
歯止めをしてください。



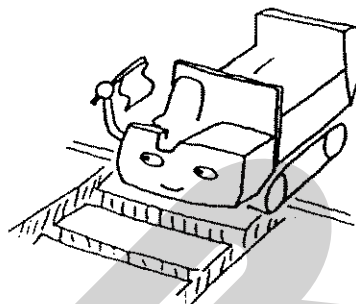
★守らないと
暴走事故等を引き起こすおそれがあります。



警告

農道走行中は安全運転する

周囲に充分注意して
安全運転してください。



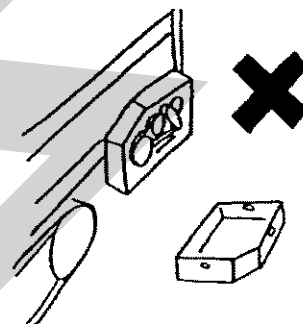
★守らないと
事故を引き起こすおそれがあります。



警告

カバー類は必ず付ける

点検、整備等で取り外したカバー類は
必ず取り付けてから作業してください。



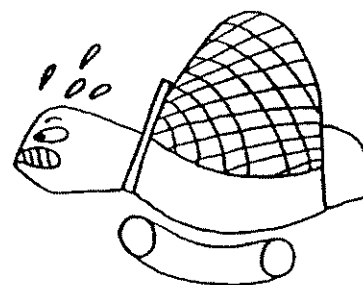
★守らないと
機械に巻き込まれて傷害を引き起こすおそれがあります。



注意

過積載はしない

最大積載量内で作業してください。



★守らないと
機械の破損により思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

●トラックによる運搬時の注意事項



警告

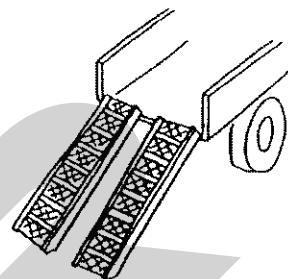
強度，長さ，幅の充分あるあゆみ板を使用する

積み込み，積降しをする時は、平坦で安全な
場所で、トラックのエンジンを止め、駐車
ブレーキをかけ、歯止めをしてください。

強度，長さ，幅の充分なあゆみ板を使用してください。

★守らないと

転落等の事故を引き起こすおそれがあります。



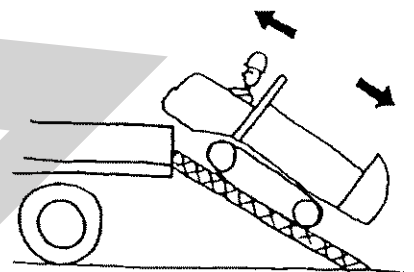
警告

登りは前進，下りは後進で行う

トラックへ積み込む時は前進
降ろす時は後進で行って下さい。

★守らないと

バランスをくずし、転落等の事故を引き起こすおそれがあります。



●作業後の注意事項



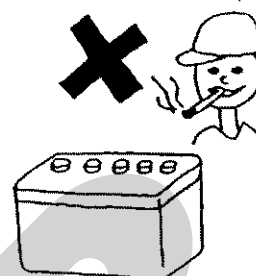
危険

バッテリー周辺は火気厳禁

バッテリーの点検，充電時は
火気厳禁です。

★守らないと

バッテリーに引火，爆発して、やけど等を引き起こすおそれがあります。



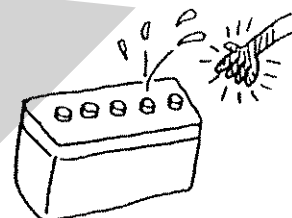
危険

バッテリー液は体に付けない

バッテリー液は希硫酸で危険です。
皮膚や服に付けないでください。

★守らないと

やけどをしたり、服が破れるおそれがあります。



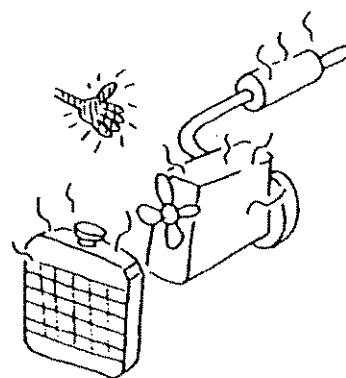
注意

エンジンの高温部にさわらない

運転中，停止直後のエンジン，マフラー，
ラジエータは高温ですのでさわらないで
ください。

★守らないと

やけどをするおそれがあります。



■ サービスについて

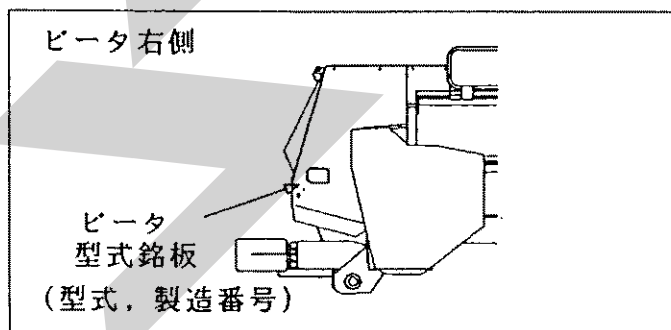
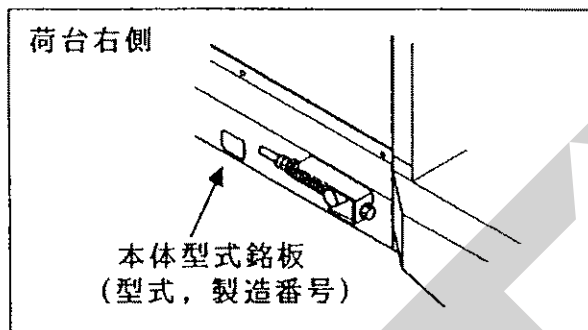
アフターサービスについて

機械の調子が悪い時は49ページの「故障と対策」に従って、点検してください。
なお不具合がある場合はお買上げの販売店にご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- ・ 型式
- ・ 製造番号
- ・ 購入年月日
- ・ オプションの有無
- ・ 使用時間
- ・ 使用状況
- ・ 不具合が発生した時の状況をできるだけ詳しく

	本 体	ビータ
型 式		
製造番号		
購入年月日		
オプション		



補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。
ただし供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

■ 本製品の使用目的について

本マニアスプレッドは、主として湿田、軟弱地、傾斜地、狭い圃場など牽引式のマニアスプレッドで作業できない場所での堆肥散布を目的とした、クローラ方式の自走マニアスプレッドです。

堆肥散布や運搬以外に使用しないでください。

また、改造は行わないでください。

■仕様諸元

型 式 名		JMS1230	JMS1240	JMS1250
ビータ形状		横軸ビータ	縦軸ビータ	ディスクビータ
最大積載重量 Kg		1200		
最大積載容量 m ³		2.0		
機体寸法	全長 mm	3515	3570	3760
	全幅 mm	1525	1525	1580
	全高 mm	1720	1720	1720
地上高	側板高さ mm	1235		
	床面 mm	715		
荷台寸法 長さ×幅×高さ mm		1980×1280×520		
重 量 Kg		1375	1415	1455
クローラ 接地長×幅 mm		1415×350 (ゴムクローラ)		
輪 距 mm		1100		
接 地 圧 Kg/cm ²		0.14~0.26	0.14~0.26	0.15~0.27
散 布 幅 m		2~3	8~10	3~10 (可変)
フロアコンベア速度 m/分		1速:0.62 2速:1.24 3速:1.86 4速:2.48		
エ ン ジ ン 型 式		いすゞ3LB1		
エ ン ジ ン 出 力 PS		22		
走 行 速 度 Km/時		1速:3.0	2速:5.7	3速:10.0
最大安定傾斜角度(空車左右)度		40		
登坂能力 (積車) 度		30	30	30

型 式 名		JMS1730	JMS1740	JMS1750
ビータ形状		横軸ビータ	縦軸ビータ	ディスクビータ
最大積載重量 Kg		1700		
最大積載容量 m ³		2.4		
機体寸法	全長 mm	3915	3970	4160
	全幅 mm	1525	1525	1580
	全高 mm	1720	1720	1720
地上高	側板高さ mm	1235		
	床面 mm	715		
荷台寸法 長さ×幅×高さ mm		2380×1280×520		
重 量 Kg		1410	1450	1490
クローラ 接地長×幅 mm		1415×350 (ゴムクローラ)		
輪 距 mm		1100		
接 地 圧 Kg/cm ²		0.14~0.31	0.15~0.32	0.15~0.32
散 布 幅 m		2~3	8~10	3~10 (可変)
フロアコンベア速度 m/分		1速:0.62 2速:1.24 3速:1.86 4速:2.48		
エ ン ジ ン 型 式		いすゞ3LB1		
エ ン ジ ン 出 力 PS		22		
走 行 速 度 Km/時		1速:3.0	2速:5.7	3速:10.0
最大安定傾斜角度(空車左右)度		40		
登坂能力 (積車) 度		25	25	25

型式名について

ビータ形状により型式が変わります。
お求めいただいた仕様を確認してください。

例) JMS1750……ディスクビータ付き

オプションアタッチ

JMS1730・1740・1750用
(JMS1230・1240・1250には取付けできません)

・キャビンアタッチ	AJG1710 (工場オプション) ヒータ付き防寒キャビン
・クレーンアタッチ	AJK1700 (工場オプション) 最大吊り上げ重量480kg フレコン入り堆肥用
・パワーゲートアタッチ	AJG1710 (工場オプション) 運搬時の堆肥こぼれ防止用
・微量散布アタッチ	AJS1700

■ 付属部品

標準付属部品として次のものが付属しています。

・スパナ 30	-----	2
・シャーピン（スペア，本機に格納）	-----	3
・JMS12**、17**取扱説明書	-----	1
・エンジン取扱説明書	-----	1
・エンジンサービス手帳	-----	1

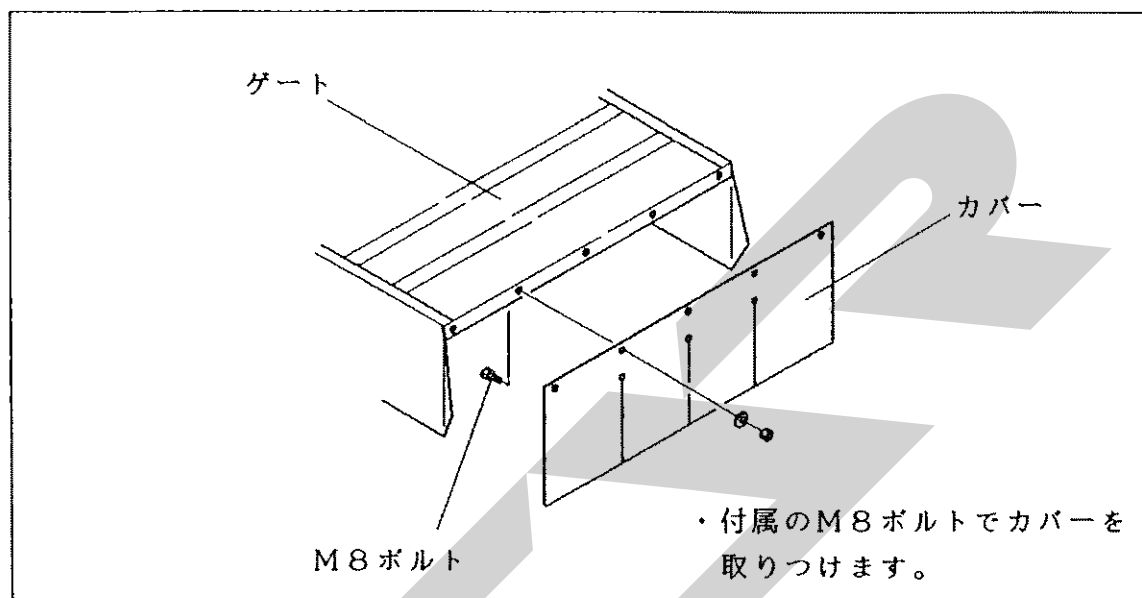
エンジンサービス手帳の手続きはすぐに行い、控えをなくさないように保管してください。

手続きのしかたはエンジンサービス手帳をごらんください。

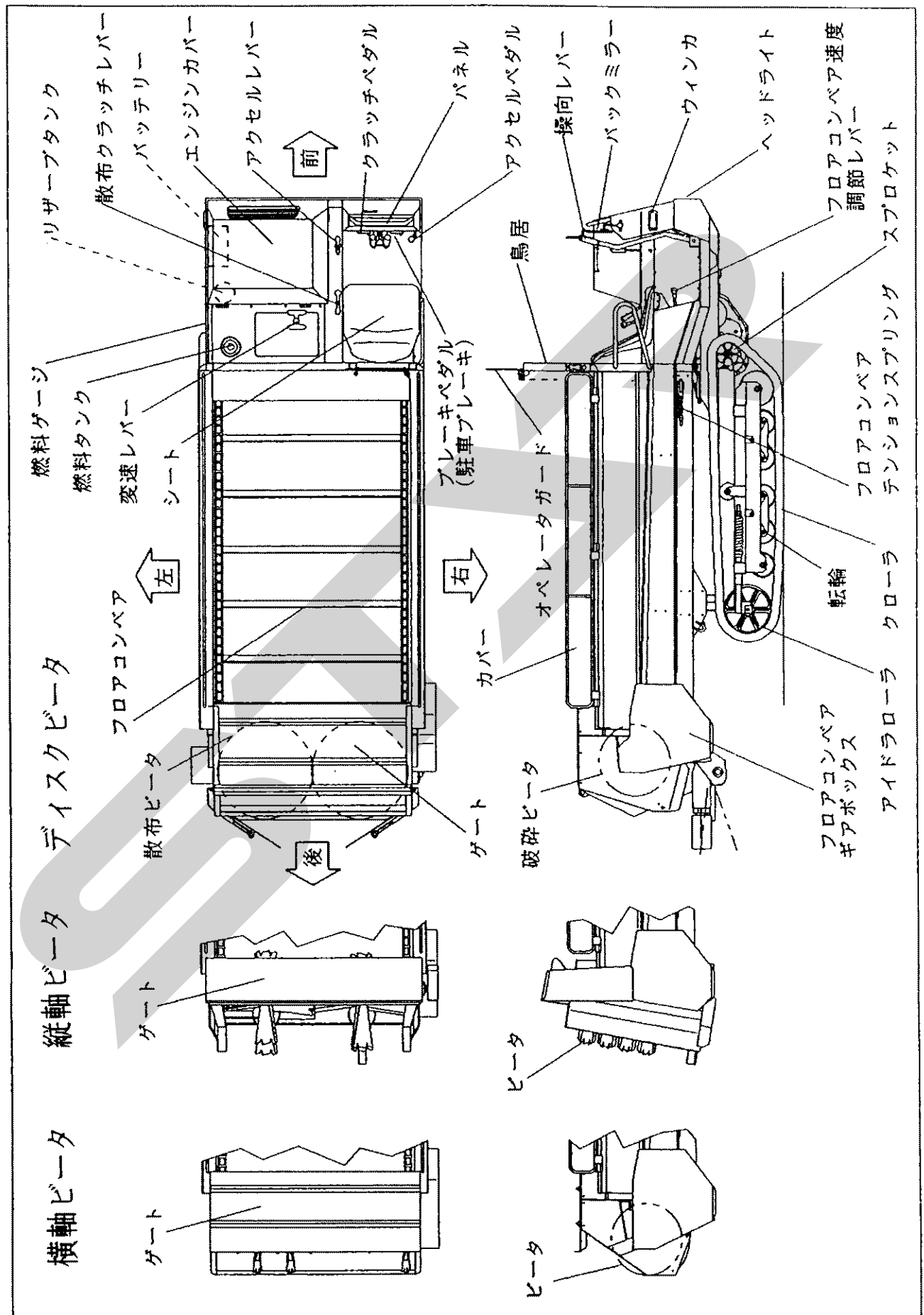
■開梱のしかた

下記の部品は輸送の都合上装着してありません。使用前に取り付けてください。

(1) カバー（横軸ビータ、ディスクビータ仕様のみ）



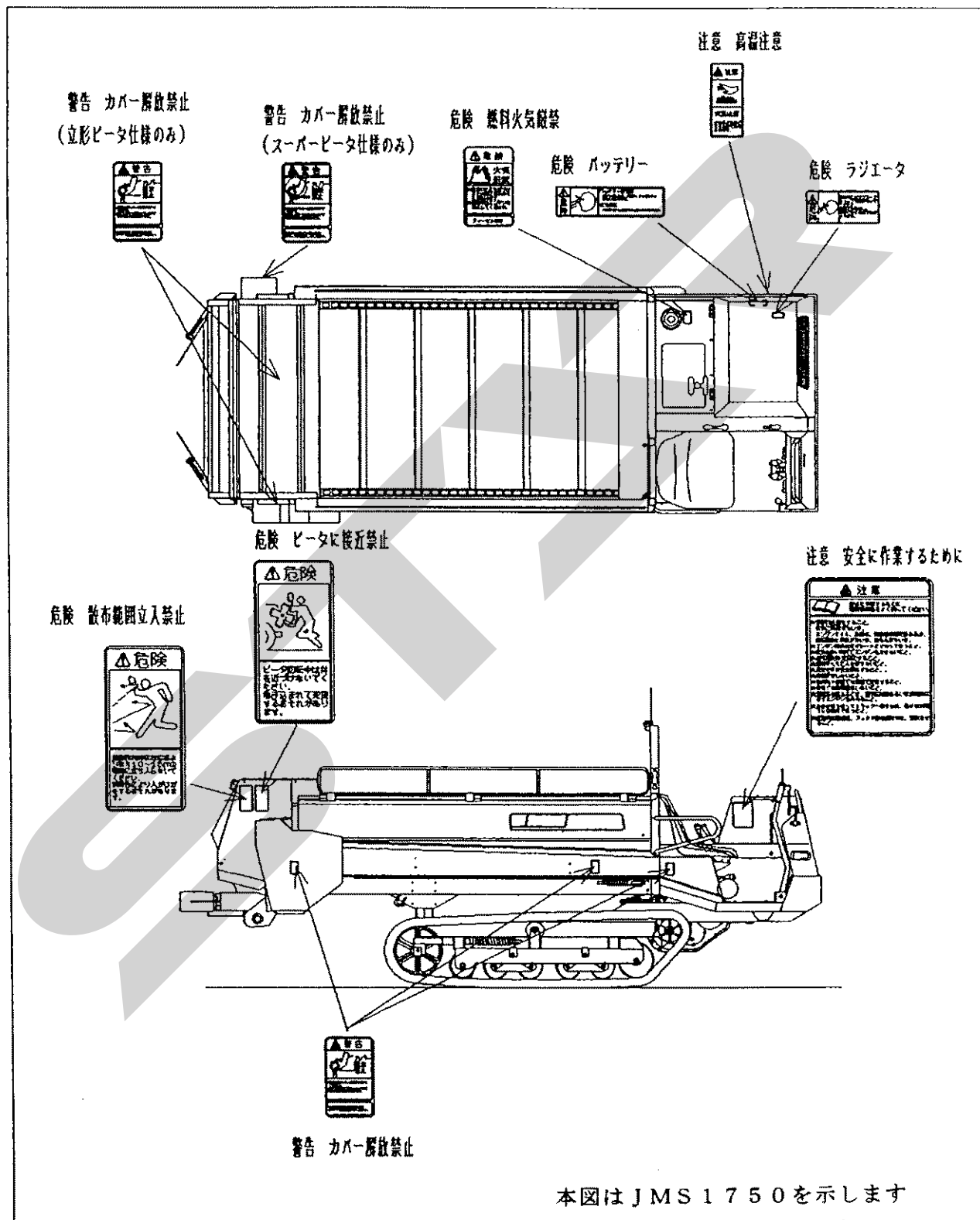
■各部の名称



■安全銘板の張り付け位置

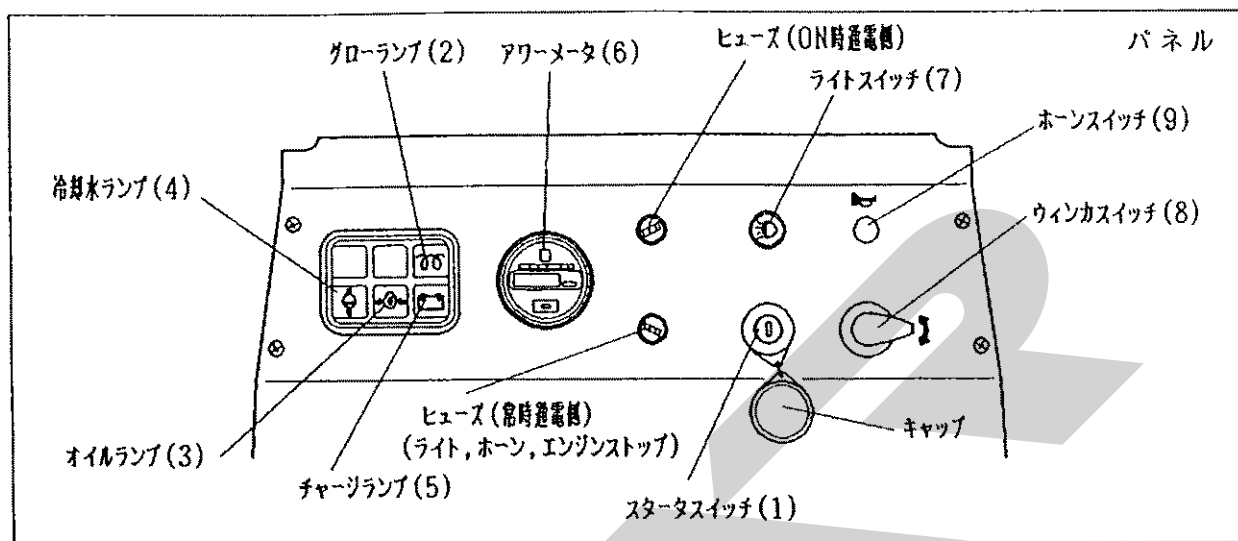
安全に作業していただくための安全銘板の張り付け位置を示します。

安全銘板はいつも汚れや破損のないようにし、もし破損した場合は新しいものを購入し張りなおしてください。

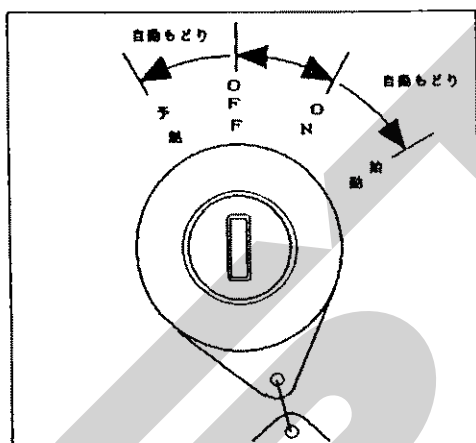


■ 運転と操作

1. スイッチとメータの取扱い



(1) スタータスイッチ



「予熱」にするとエンジンはグロープラグで予熱され、「始動」にするとセルモータが回転しエンジンが始動します。

「ON」位置では各種電装品が作動します。

「OFF」位置にすると、エンジンは停止し電気回路が切れます。この位置でキーの抜き差しができます。

[取扱いの注意]

- ・ヘッドライト、ホーンは「OFF」位置でも作動します。
- ・使用後はキーを抜きキャップをしてください。

(2) グローランプ

エンジンの予熱の状況を示します。

スタータスイッチを「予熱」に回すとグローランプが点灯します。そのままスタータスイッチを保持しグローランプが消灯すると予熱完了です。

速熱型グロープラグを採用していますので、約4秒で予熱が完了します。

(3) オイルランプ

エンジン各部に送られているエンジンオイルの圧力が正常かどうかを示しています。

スタータスイッチを「ON」にすると点灯し、エンジンが始動してオイルが正常に循環しはじめると消灯します。

(4) 冷却水ランプ

エンジン冷却水温度が適正かどうかを示します。水温が高すぎると点灯し、適正であれば消えています。

(5) チャージランプ

充電回路が正常かどうかを示します。スタータスイッチを「ON」にすると点灯し、エンジンが始動して充電回路が正常に働いていれば消えています。

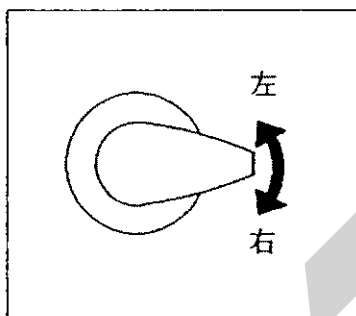
(6) アワーメータ

運転時間を表示します。時間単位ですが、いちばん右の桁は1/10時間です。

(7) ライトスイッチ

手前に引くとヘッドライトが点灯します。

(8) ウィンカスイッチ

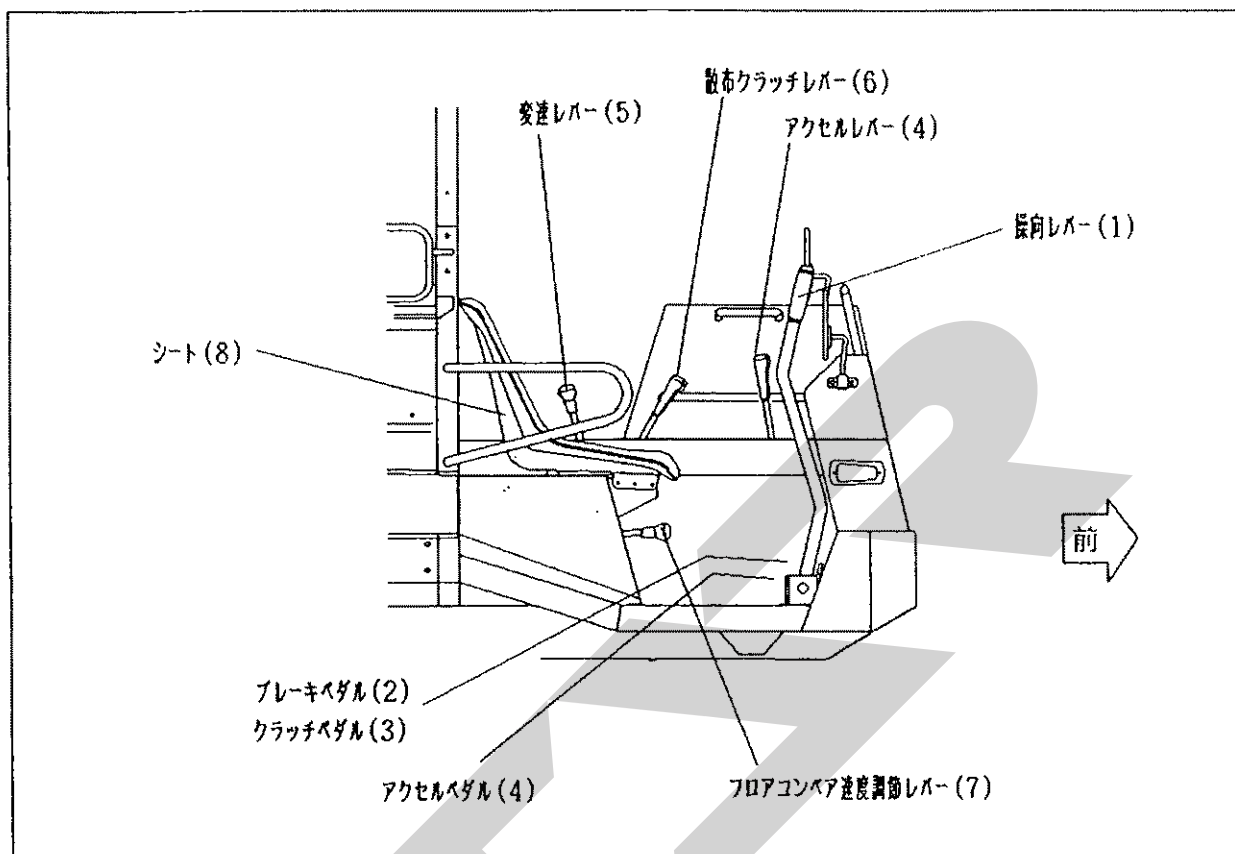


時計回りに回すと右側のウィンカが点滅し、反時計回りに回すと左側のウィンカが点滅します。

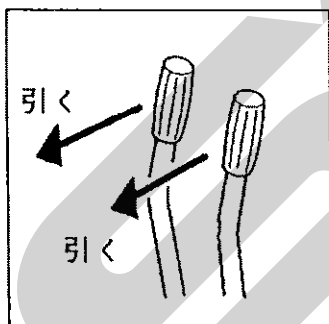
(9) ホーンスイッチ

押すとホーンが鳴ります。

2. 運転装置の取扱い



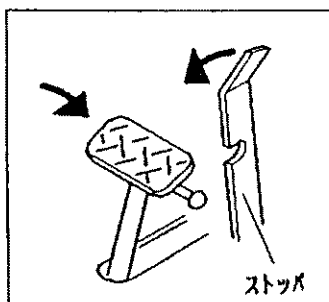
(1) 操向レバー



右側のレバーを手前に引くと右へ、左側のレバーを手前に引くと左へ旋回します。

軽く引くと大きく旋回し、強く引くと急旋回します。

(2) ブレーキペダル (駐車ブレーキ)



ペダルを踏むとブレーキがかかります。

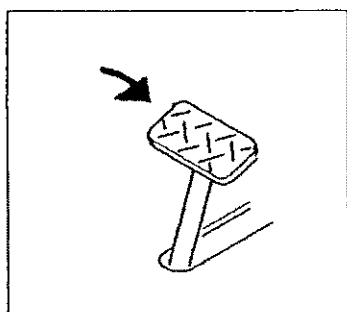
停止のときはクラッチペダルを踏んでからブレーキペダルを踏んでください。

ペダルを踏んだままストッパをかけると駐車ブレーキになります。

〔取扱いの注意〕

- ・下り坂ではエンジンプレーキと併用してください。
- ・クラッチペダルを踏まずにブレーキペダルを長い間踏んでいると、ライニングが焼き付くことがあります。また、クラッチの摩耗の原因となります。

(3) クラッチペダル

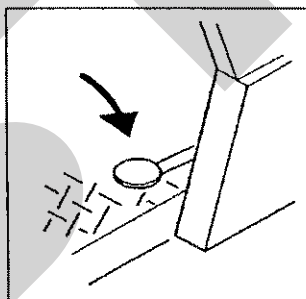
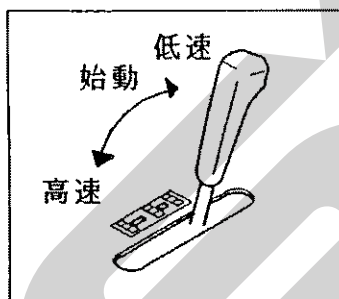


クラッチペダルをいっぱい踏み込むとクラッチが切れて動力の伝達が絶たれます。

〔取扱いの注意〕

- ・クラッチペダルの操作は、切る場合は素早く、入れる場合はゆっくり行ってください。
- ・変速が終り運転作業中は、必ずクラッチペダルから足を離しておいてください。
- ・変速操作は必ずクラッチを切ってから行ってください。

(4) アクセルレバー、アクセルペダル



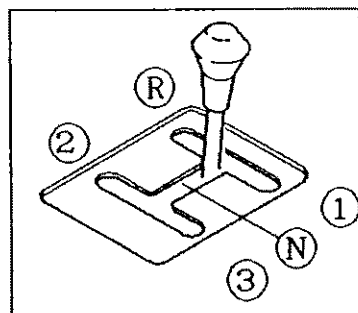
アクセルレバーを手前に引くとエンジンの回転が上がり、前に押すと低速になります。

また、任意の回転にできます。

アクセルペダルはアクセルレバーと連動していますので、アクセルレバーによりエンジンの回転を上げていると、アクセル

ペダルから足を離してもエンジンの回転は下がりません。

(5) 変速レバー

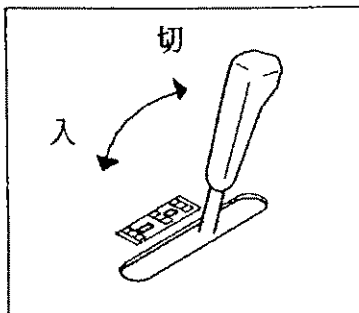


前進3段、後進1段でパターンは次のとおりです。

①: 1速 ②: 2速 ③: 3速 R: 後退 N: 中立

変速は、エンジンを低速にして、クラッチペダルを踏み込んで行います。レバーが入りにくいときは、クラッチペダルを踏みなおしてください。

(6) 散布クラッチレバー

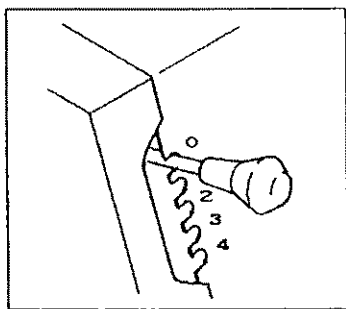


レバーを手前に引くと散布装置（ビータ、フロアコンベア）が作動して堆肥散布ができます。

[取扱いの注意]

- ・ 散布クラッチレバーはゆるやかに操作してください。急激な操作はチェーン等の損傷の原因となります。

(7) フロアコンベア速度調節レバー



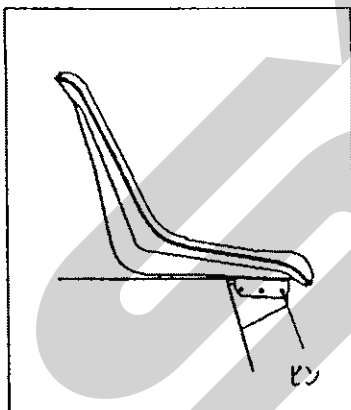
フロアコンベアの速度は4段階に調節できます。

「0」は停止です。「1」→「4」の順に速度が速くなります。

堆肥の散布量に合わせて調節してください。

調節するときは、散布クラッチレバーを「入」にして、ビータを回転させながらレバーを動かしてください。

(8) シート



ピンを差し替えると前後3段階にシート位置を調節することができます。

体格に合わせて調節してください。

■ 運転要領

1. 新車の運転

最初の50～100時間はならし運転期間です。

各部をなじませ、いつまでも性能を保つため、特に次のことに注意してください。

- ・ エンジンが暖まるまで暖機運転を行ない、空ふかしはしないでください。
- ・ 急発進、急加速、急停止はさけてください。
- ・ フルスピードや無理な負荷はできるだけかけないようにしてください。
- ・ 過負荷にならないように積載量、フロアコンベア速度を調節してください。
- ・ 初回のオイル交換、給油脂、点検は確実に行ってください。

(48ページの「点検整備基準」を参照してください。)

2. 作業前の点検



- ・ 燃料補給時はくわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- ・ エンジン回転中や、停止直後は絶対に給油、注油しないでください。
- ・ 給油したときは燃料キャップを確実にしめ、こぼした場合はきれいにふきとってください。
- ・ 燃料ホース等の破損があると燃料もれをおこします。必ず点検してください。
守らないと、火災事故を引き起こすおそれがあります。



- ・ マフラーやエンジンまわりに、わらくず、ゴミが付着していないか点検してください。
守らないと、火災事故を引き起こすおそれがあります。



- ・ 点検、整備、またはそうじするときは必ずエンジンを停止してください。
守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

(1) 燃料の点検

燃料タンクに燃料が充分に入っているか確認してください。

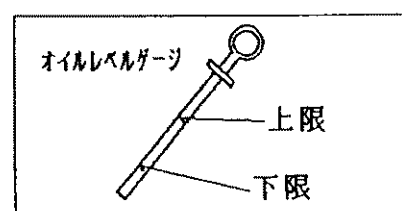
タンク容量は25リットルです。

燃料補給時はゴミ、水が混入しないように注意してください。

(2) エンジンオイルの点検

エンジンオイルが適量か確認します。

オイルレベルゲージにある上限、下限を示す印の間にあれば適量です。



(3) 冷却水の点検

リザーブタンクの2本の線の間にあることを確認します。

不足の場合は、適当な混合比のロングライフクーラントを補給してください。

3. エンジンの始動



敬生
言口

・排気ガスは有害ですので、換気の悪い車庫や屋内でエンジンを始動しないでください。

守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故になるおそれがあります。

・エンジンの始動は必ずシートにすわり、周囲の安全を確認し、いつでも運転操作ができる状態で行ってください。

守らないと、正常な運転ができずに傷害事故を引き起こすおそれがあります。

(1) 駐車ブレーキをかけます。

(2) 散布クラッチレバーを「切」にし、変速レバーを「中立」にします。

(3) アクセルペダルを少し踏みこみます。

(4) クラッチペダルを踏みこみます。

クラッチペダルをいっぱい踏みこまないとスタータが回りません。

(5) スタータスイッチを左に回し予熱を行ってから、右に回しエンジンを始動します。

予熱はグローランプが消灯するまで行います。(約4秒)

(6) 始動したらすぐにスタータスイッチから手をはなします。

(7) オイルランプ、チャージランプが消えているか確認します。

(8) アクセルレバーを「低速」位置にして10分以上暖機運転を行います。

[取扱いの注意]

・飛び出し事故を防止するため、クラッチペダルをいっぱい踏みこまないとエンジンの始動ができません。

・エンジンが始動しない場合、セルモータを10秒以上連続で回さないでください。
一回で始動しない場合は30秒以上の休止期間をおいてから再始動してください。

- ・再始動はエンジンが完全に止まってから行ってください。
- ・エンジン回転中はスタータスイッチを「ON」位置にしておいてください。また、キーを抜き取らないでください。
- ・暖機運転は冬期にかぎらず必ず行ってください。
- ・暖機運転中は排気音，排気色，異音，振動等点検してください。
- ・オイルランプ，チャージランプが消灯しない場合はただちにエンジンを止め点検してください。

4. エンジンの停止



- ・駐車，格納時は必ずキーを抜いてください。
守らないと、子供がいたずらしたり、操作を知らない人が動かして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- (1) アクセルレバーを「低速」にして、3分間程度冷機運転してください。
- (2) スタータスイッチを「OFF」にするとエンジンが停止します。
- (3) キーを抜いてキャップをしてください。

5. 発進



- ・周囲の安全を確認してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。
- ・共同作業の場合は合図をしてから発進してください。
守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- (1) クラッチペダルを踏みこんでクラッチを切り、エンジンを始動します。
- (2) 変速レバーを希望の位置にいれます。
- (3) 駐車ブレーキをはずします。
- (4) アクセルペダルを踏んでエンジンの回転を上げながら、クラッチペダルから静かに足を離していくと動きだします。
- (5) 動きだしたら必ずクラッチペダルから足を離してください。

6. 停 止



警告

- ・機械から離れる時は必ず散布クラッチレバーを「切」にしたのちエンジンを停止してください。
 - ・駐車する場合はできるだけ平な場所を選んでください。
 - ・傾斜地等で駐停車する時は必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、歯止めをしてください。
- 守らないと、暴走事故等を引き起こすおそれがあります。

- (1) エンジンの回転を下げ、低速にします。
- (2) クラッチペダルを踏みこんでクラッチを切ります。
- (3) ブレーキペダルを踏みこむと、機体が停止します。
- (4) 変速レバーを「1速」または「後退」に入れます。
- (5) 駐車ブレーキをかけます。
- (6) エンジンを止めます。

〔取扱いの注意〕

- ・登り坂の途中で半クラッチを使った一時停止（ブレーキを使用せず、アクセルペダルを踏みこんで車を保持すること）はしないでください。
- クラッチ板を過熱、摩耗させ、寿命が著しく低下します。

7. 変 速

- (1) クラッチペダルをいっぱい踏みこんで、クラッチを切ります。
- (2) 変速レバーを希望の位置に入れます。
- (3) クラッチペダルから静かに足を離し、クラッチをつなぎます。

8. 旋 回



警告

- ・3速での急旋回は危険ですので、絶対しないでください。
 - ・傾斜地での旋回や等高線にそった走行はしないでください。
- 傾斜地は斜面にそって登り降りしてください。
- 守らないと、転落や接触により傷害事故を引き起こすおそれがあります。

旋回したい側の操向レバーを手前に引くと旋回します。

操向レバーを引く力に応じて旋回半径が変わります。

軽く引くと、大回りになります。

強く引くと急旋回（信地旋回）します。

9. 坂道走行



・坂道では低速で走行してください。

特に下り坂ではエンジン回転を中速以下にし、エンジンプレーキを使って走行してください。

守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

坂道発進

(1) 駐車ブレーキをかけます。

(2) クラッチペダルをいっばいに踏みこみ、変速レバーを「1速」に入れます。

(3) アクセルレバーでエンジンの回転を上げます。

(4) 駐車ブレーキをゆるめると同時にクラッチペダルから足を離すと、発進します。

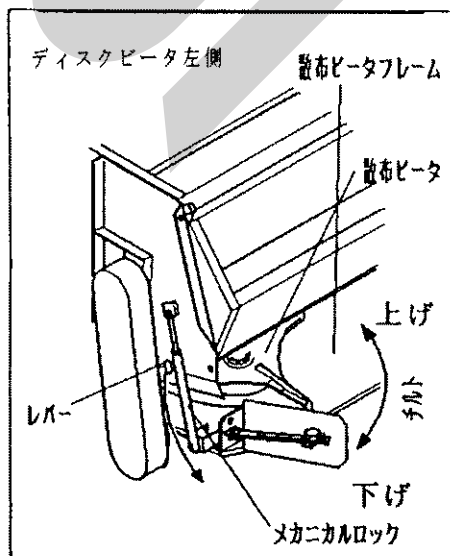
下り坂では、クラッチペダルを踏まずに、エンジンプレーキを使って走行してください。

10. ディスクビータのチルト操作（ディスクビータ仕様）



・チルト操作はビータの回転を止めてから行ってください。

守らないと、ビータに巻き込まれて、死亡事故を引き起こすおそれがあります。



ディスクビータは散布ビータがチルト（傾く）して散布幅が変わられます。

上向にチルトさせると幅広散布，薄まきとなり、下向にチルトさせると狭幅，厚まきとなります。

チルト操作はディスクビータ左側で行ないます。

(1) メカニカルロックのレバーを引くとロックが外れます。

(2) レバーを引いたまま散布ビータフレームを手で上げまたは下げ方向に動かします。

(3) レバーをはなすとその位置でロックします。

11. 散布制御部品について（ディスクビータ仕様）

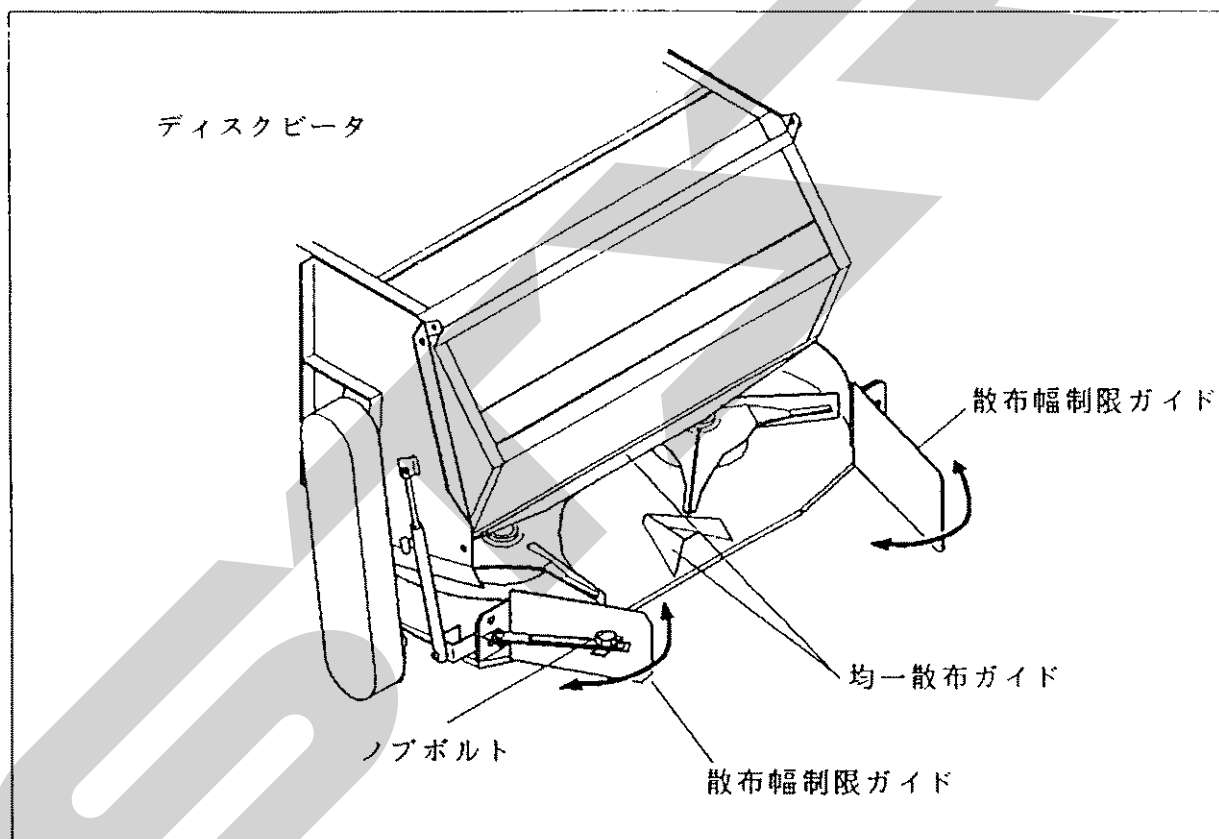
ディスクビータには以下のような散布制御部品が付属しています。
用途に合わせて使用してください。

均一散布ガイド

パーク堆肥のようなサラサラした堆肥を均一に散布するための部品です。

〔取扱いの注意〕

- ・長わら入り堆肥を散布する場合は取り外してください。



散布幅制限ガイド

あぜぎわやハウス内等で、散布幅を制限したい時に使用します。

散布幅を調節する時は、ノブボルトを反時計方向にゆるめてから散布幅制限ガイドの角度を変え、再びノブボルトを時計方向に回して固定してください。

散布幅制限ガイドは左右別々に調節できます。

散布幅制限ガイドが不要な時は、いっばいに開いておきます。

〔取扱いの注意〕

- ・作業がおわったら、散布幅制限ガイドを閉じておいてください。

運転中の注意事項



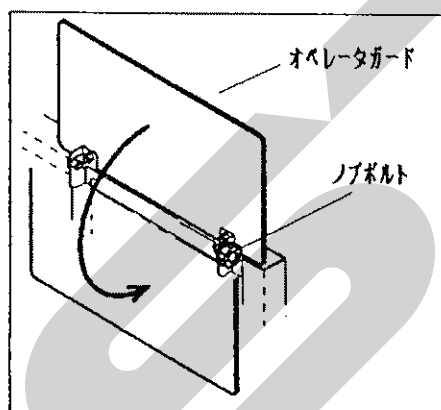
- ・運転中は荷台などに人を乗せないでください。
- ・点検、整備等で取り外したカバー類は必ず取り付けてから作業してください。
- ・農道走行は、周囲に充分注意して、安全運転してください。
守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



- ・運転中、停止直後のエンジン、マフラー、ラジエータは高温ですのでさわらないでください。
守らないと、やけどをするおそれがあります。
- ・公道の乗車走行はしないでください。
- ・過積載をしないでください。
守らないと、機械の破損により思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



- ・堆肥散布中はオペレータガードを立ててください。
守らないと、堆肥や堆肥の中の石などが飛散するので、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



オペレータガードの折りたたみ方

ハウス、納屋の出入りなどオペレータガードが当たる場合は折りたたむことができます。

ノブボルトをゆるめ、後方へ折りたたみ、任意の位置でノブボルトを締付けて固定してください。
堆肥散布をする前には必ずオペレータガードを立て、しっかりとノブボルトを締めつけてください。

〔取扱いの注意〕

- ・クローラはゴム製ですから、鋭角な切り株、石等の上の走行はクローラを損傷することがありますので、できるだけ走行しないでください。
- ・クローラ、転輪の間に大きな石（直径30mm以上）等が入った時は、できるだけ早く取り除いてください。そのまま走行すると走行装置を損傷する原因となります。
- ・転輪が完全に動いているか注意してください。

■ 堆肥散布作業



- ・回転中のビータには絶対に近づかないでください。
- ・堆肥や、堆肥の中の石などが飛散するので、後方および左右10～15mの範囲には人を立ち入らせないでください。
守らないと、死亡や傷害事故を引き起こすおそれがあります。



- ・傾斜地や凹凸圃場では低速で作業してください。
- ・傾斜地での旋回や、等高線ぞいの作業はしないでください。
傾斜地では斜面方向で作業してください。
守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. 堆肥の積み込み

能率よく散布するためには、堆肥を適正量積み込む必要があります。

積みすぎると堆肥が詰まったり、過負荷によりビータ回転速度が低下し、かえって非能率になります。

適正積み込み量はゲートの高さ以下です。

また、積み込み量は堆肥の性状によってかえてください。

たとえば、完熟した堆肥や、もみがら堆肥のようにかさの軽い堆肥はゲートの高さまで積んでも散布できますが、生わらの多い不完熟堆肥のような場合は負荷が大きいのですくなめに積み込んでください。

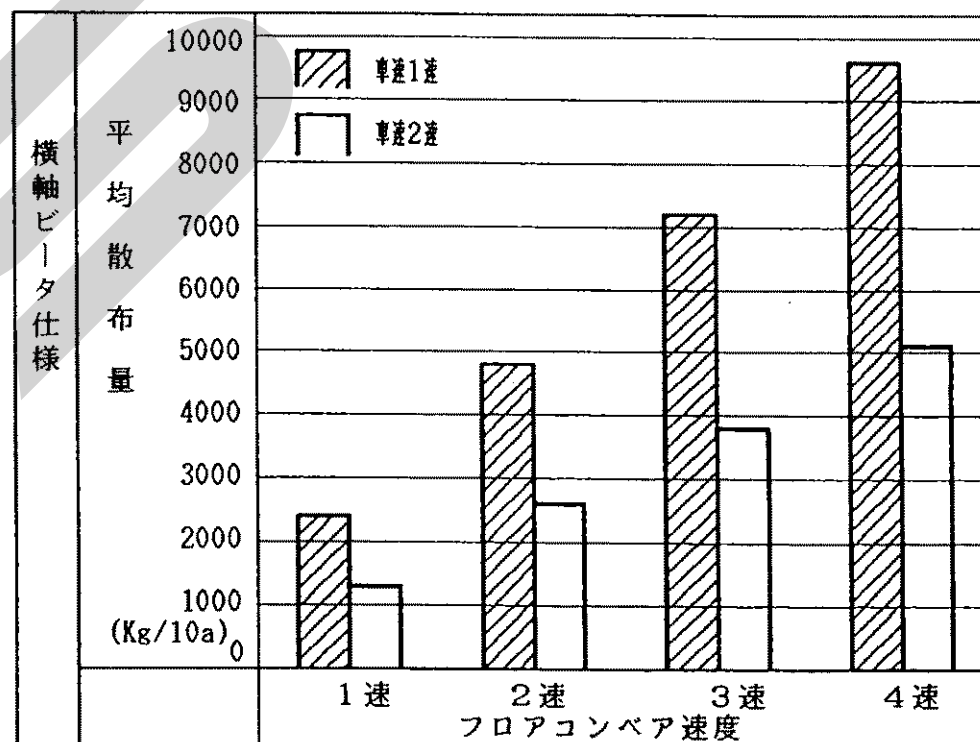
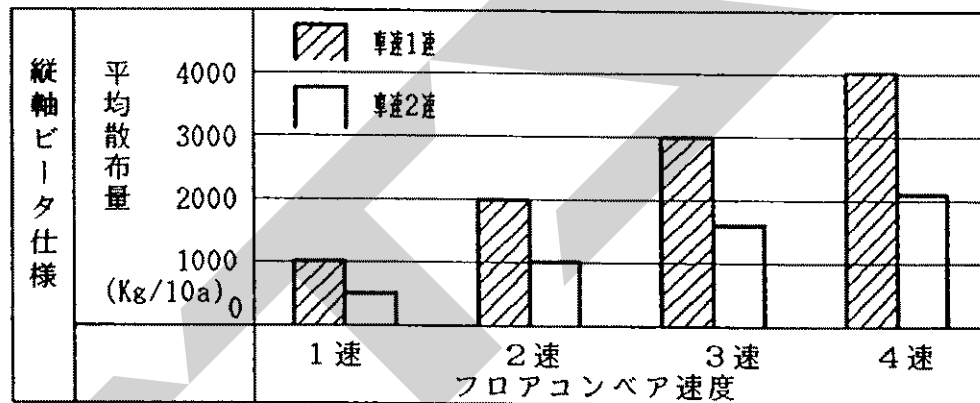
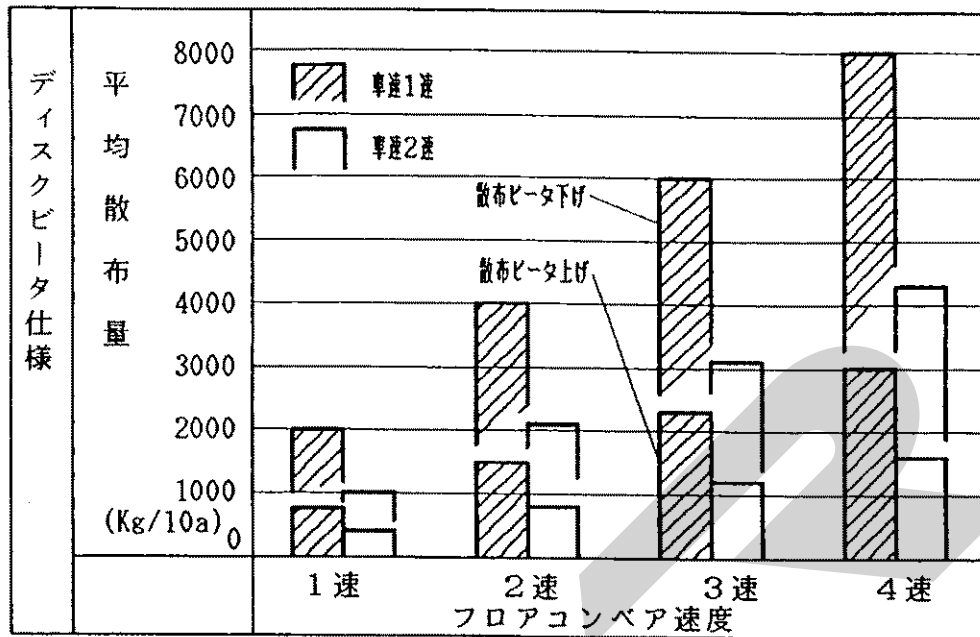
2. 散布量の調節

散布量は、フロアコンベア速度、車速により調節します。

フロアコンベア速度は1速～4速まであり、数字が大きくなるほど速くなります。

スーパービータ仕様では散布幅も変えられますので、フロアコンベア速度と共に調節してください。

散布量の調節は次のページの図を参考にしてください。



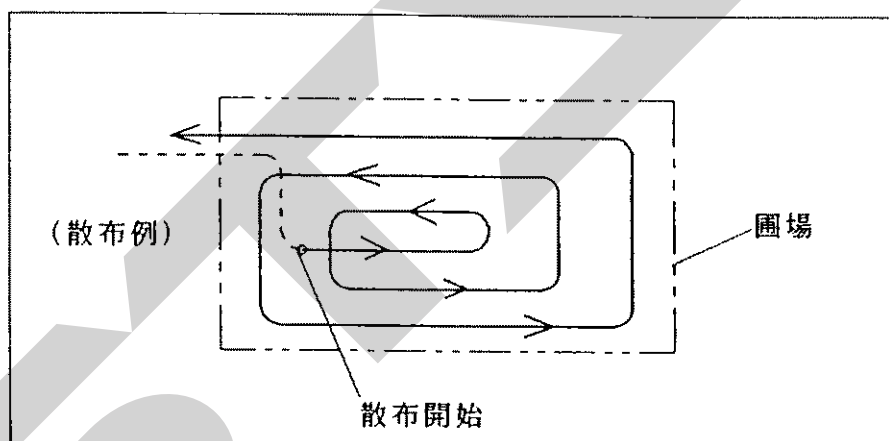
〔取扱いの注意〕

- ・前ページの図は荷台に堆肥を平均に積み、エンジン「高速」、車速1速と車速2速で行った場合の10a当たりの散布量です。（計算値）
- ・ディスクビータ仕様の図は、散布ビータをいっぱい「上げ」にした場合と「下げ」にした場合を示します。
また、散布幅制限ガイドは全開の状態です。
- ・散布量は堆肥の性状により異なりますので、実際の散布量を見て調節してください。
- ・フロアコンベア速度をむやみに速くすると、過負荷になりますので、適当な速度で散布してください。
- ・生わらの多い不完熟堆肥の場合は負荷が大きいため、フロアコンベア速度「3」以下で作業してください。

3. 散布方法

- (1) 散布量図を参考にしてフロアコンベア速度を決めます。
ディスクビータ仕様では散布ビータチルト角度、散布ガイド角度を調節します。
フロアコンベア速度調節レバーは、堆肥を積む前に、ビータを回転させながら操作してください。
- (2) 堆肥を積み込みます。
- (3) 散布開始位置へ移動します。
- (4) 変速レバーを「1速」または「2速」に入れます。
- (5) アクセルレバーを「高速」にします。
- (6) 散布クラッチレバーをゆっくり「入」にして、ビータ、フロアコンベアを作動させます。
- (7) クラッチペダルから静かに足を離し、発進すると、散布します。

散布方法としては、圃場の中央より外側に向かって巡回しながら散布すると、散布した堆肥を踏みつけることなく作業でき、道路等への堆肥の落ちこぼれが少なくなります。



[取扱いの注意]

- ・ 散布は車速「1速」または「2速」で行ない、エンジンが過負荷にならないように気をつけてください。
- ・ 特に、あぜぎわ散布の時は、周囲に人がいないか、隣の圃場に飛散しないか気をつけながら行ってください。
- ・ 作業前に散布クラッチレバーを「入」にして、ビータの回転、フロアコンベアの動きに異常がないか点検してください。

■ 格 納



危険

・機械にシートをかける場合は、エンジンやマフラーが充分冷えてからかけてください。

守らないと、火災事故を引き起こすおそれがあります。

作業終了後は清掃し、各部に給油して格納してください。

長期間格納する場合は次の要領で行います。

(1) 各部を水洗いしてください。

特に荷台、走行部は入念に洗ってください。

電装品には圧力水をかけないでください。

(2) ボルト、ナット類のゆるみを点検し、必要なものは増し締めしてください。

(3) 各部に給油してください。

(4) キーを抜き、安全な場所に保管してください。

(5) なるべく屋内に格納してください。

やむをえず野外に置く場合はシート等をかけて、風雨にさらされないようにしてください。また、水溜まりのない場所に置いてください。

〔取扱いの注意〕

・清掃時、電装品（パネル、エンジン回り）には圧力水をかけないでください。

■トラックによる運搬



- ・搭車，降車時は、クローラがあゆみ板からはずれないか、充分注意してください。
- ・あゆみ板の途中で進路変更をすることは危険ですので、進路変更は事前に行ってください。
- 守らないと、転落事故等を起こすおそれがあります。

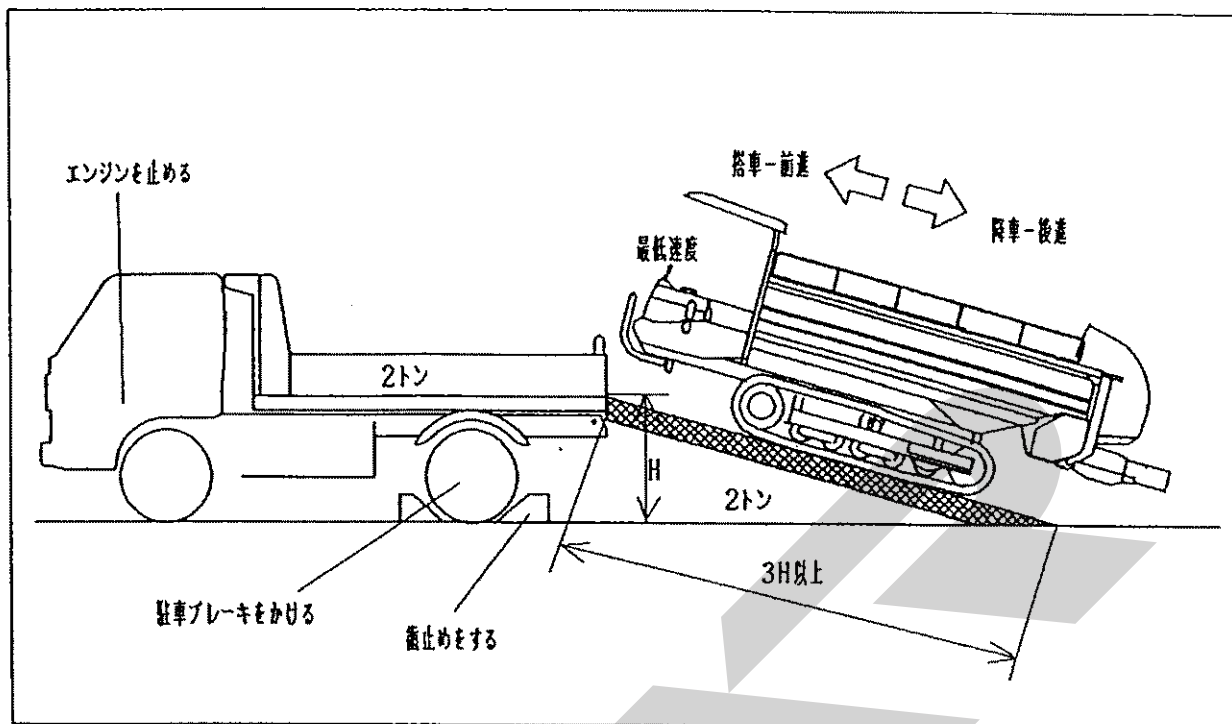


- ・トラックは2トン積み以上で、マニアスプレッドを積める広さのものを用意してください。
- ・搭車，降車時は、平坦な安全な場所でトラックのエンジンを止め、動かないように駐車ブレーキをかけ、歯止めをしてください。
- ・あゆみ板は2トンに充分耐えられ、長さはトラックの荷台高さの3倍以上あり、確実な引掛け金具付きで、滑り止め用の横さんが入ったものを用意してください。
- ・搭車は前進、降車は後進で行ってください。
- 守らないと、転落事故等を起こすおそれがあります。
- ・移動する時はマニアスプレッドが動かないように歯止めをして、トラックの荷台にロープ等で固定してください。
- ・マニアスプレッドを積んでトラックを運転する場合は、安全運転してください。
- ・搭車，降車はマニアスプレッドを空車状態で行ってください。

長距離の本機の移動はトラックにより行いますが、トラックへの搭車，降車は充分注意して、次の要領で行います。

1. 搭 車

- (1) トラックが動かないように駐車ブレーキをかけ、歯止めをしてください。
- (2) トラックにあゆみ板をかけ、間隔をクローラのトレッド（1100mm）に合わせてください。
- (3) 変速レバーを「1速」に入れ、アクセルレバーを「低速」にし、前進でゆっくり登ってください。
- (4) 片荷にならないように、トラックの荷台の中心に乗せてください。
- (5) マニアスプレッドが動かないように歯止めをして、トラックの荷台にロープ等で固定してください。



2. 降 車

搭車と同じ要領でトラックを固定し、あゆみ板をかけ、低速でゆっくり下ります。

■点検と整備

▲注意

- ・点検、整備、修理をするときは必ずエンジンを停止してください。
- ・点検、整備等で取り外したカバー類は必ず取り付けてください。
守らないと、巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ・エンジンカバーを開けたときは、必ずステーを立ててください。
- ・点検、整備作業は、危険のない平坦な場所で行ってください。

点検、整備は、作業の安全、機械の寿命、作業能率に大きく影響しますので、定期的に行ってください。作業前には機械の周りを一巡りして、異常がないか確認してください。点検、整備に際してはエンジン取扱説明書もごらんください。

[取扱いの注意]

- ・給油脂時は、給油口をウエス等できれいにしてから行ってください。
- ・交換油脂は、指定の銘柄を使ってください。交換部品は純正品を使用してください。

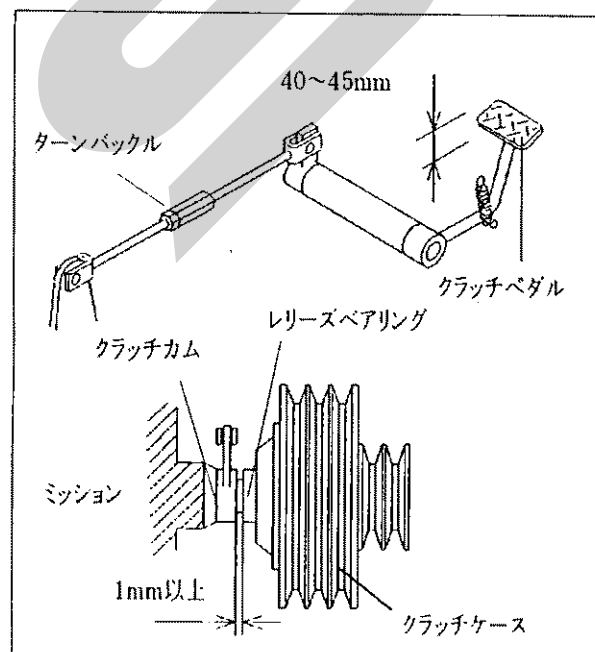
1. ボルト、ナットのゆるみ

新車初回5～10時間使用後に全てのボルト、ナットのゆるみを点検します。

2. 車体の損傷

車体に損傷や異常がないか、特に溶接部に亀裂がないか点検します。

3. クラッチの調整



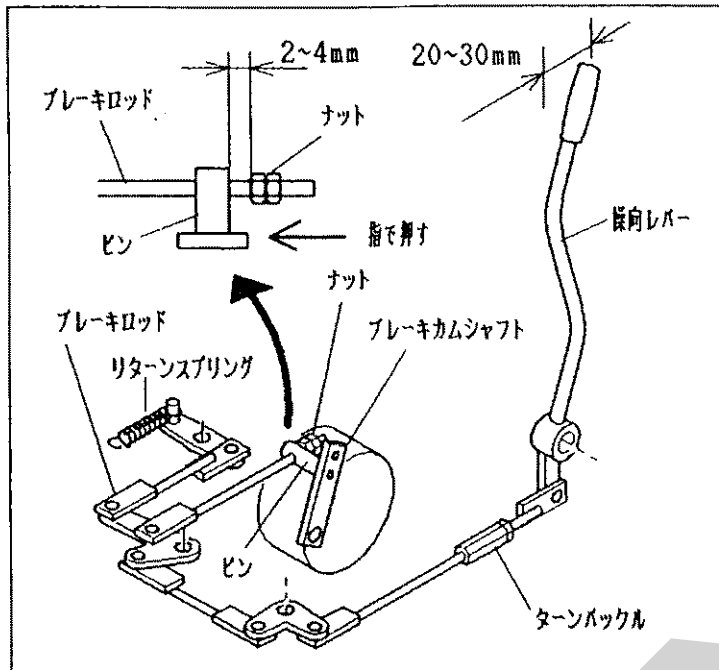
クラッチペダルの遊びが40～45mmとなるように、ターンバックルで調整します。次に、クラッチカムとクラッチリリースベアリングとのすきまが1mm以上あることを確認します。

[取扱いの注意]

- ・クラッチ板が磨耗すると、ペダルの遊びおよびカムのすきまが減少します。
- ・カムのすきまが無くなったら、クラッチ板を交換してください。
- ・クラッチケースを分解する場合は、専用プーラを使用すると簡単にできます。
(別売品として用意してあります。

部品番号46260-90109)

4. 操向レバーの調整

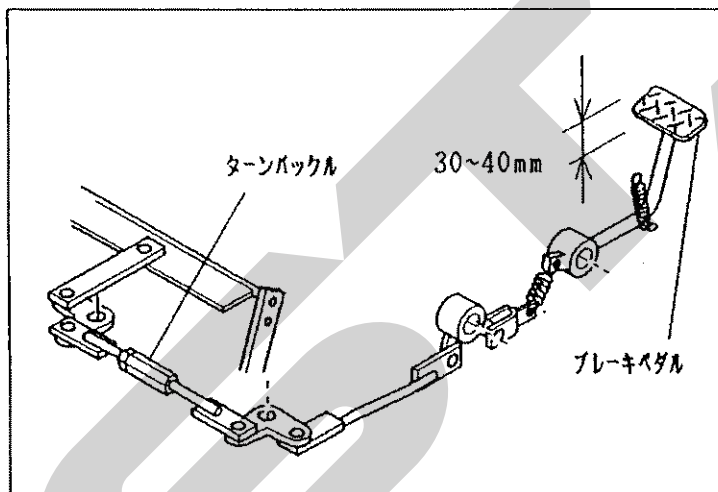


- (1) 操向レバー先端の遊び（サイドクラッチが切れはじめるまで）が20～30mmとなるようにターンバックルで調整します。
- (2) ブレーキカムシャフトを後方へ指で押し、ブレーキロッドのナットとピンとのすきまが2～4mmになるようにナットを調整します。

[取扱いの注意]

- ・ 必ずサイドクラッチが切れてからブレーキが効くように調整します。

5. ブレーキペダルの調整



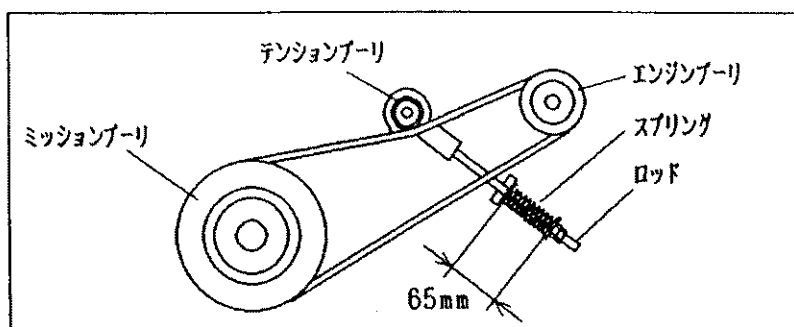
ブレーキペダルの遊びが30～40mmになるように、ターンバックルで調整します。

[取扱いの注意]

- ・ 操向レバーの調整後に行います。

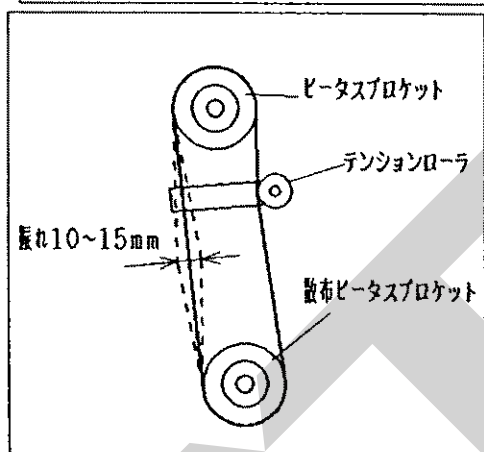
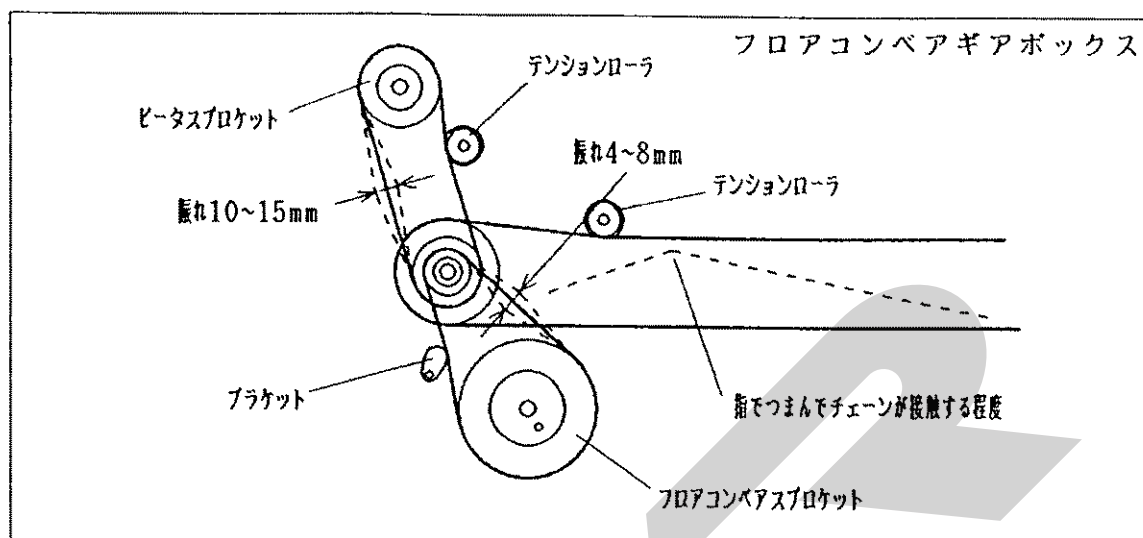
6. Vベルトの張り

Vベルトの張りは、テンションプーリをロッドにより移動させて行います。張りの程度は、スプリングの長さが65mmになるようにします。



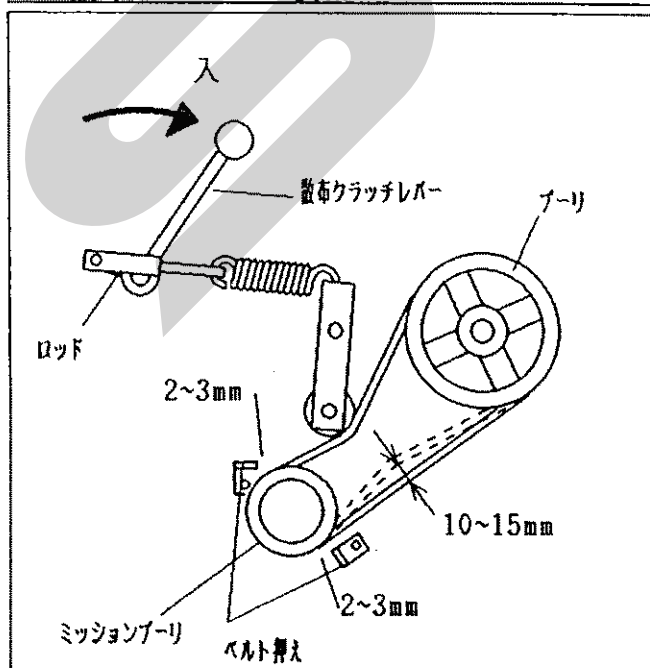
7. ローラチェーンの張り

ローラチェーンの張りは、テンションローラ、ブラケットにより行います。
ローラチェーンのたるみの基準は下図の通りです。



ディスクビータ仕様の場合はディスクビータ左側のローラチェーンも左図のように張ります。

8. 散布クラッチの調整



散布クラッチは、散布クラッチレバーを「切」にしたときビータ、フロアコンベアが停止し、「入」にしたときに動き出すことを確認します。

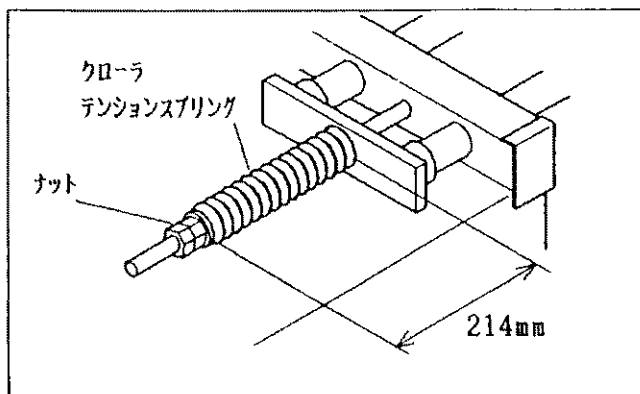
調整は運転席左側にあるロッドを伸縮させて行ない、レバーを「入」にしたとき、Vベルト中央部のたるみを10～15mm（押力2Kg）にします。

またこのとき、ベルト押えとVベルトとのすきまを2～3mmにします。

9. クローラの調整

クローラは自動緊張方式ですが、摩耗、なじみ等によりゆるむ場合がありますので、50時間毎に点検します。

調整時は、クローラテンションスプリングの長さが214mmになるようにナットで調整します。



〔取扱いの注意〕

- ・クローラをたるませたまま走行すると、脱輪することがあります。
- また、張りすぎると馬力損失、クローラ切断事故の原因となりますので、規定通り張ってください。

10. 転輪

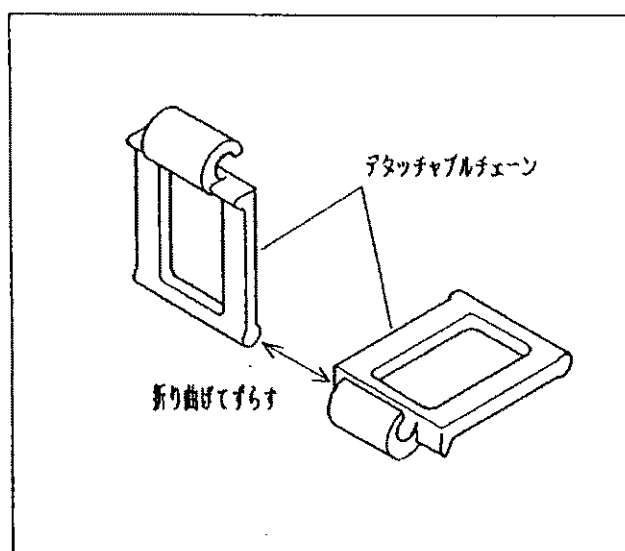
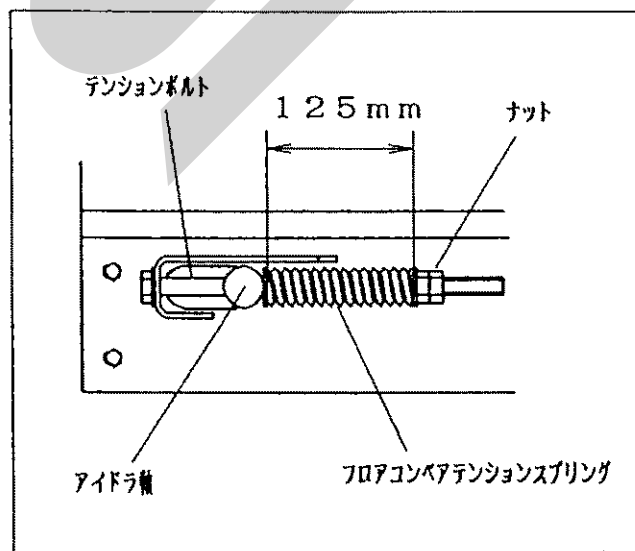
各転輪が完全に動いているか点検してください。作動が不完全な場合には、給脂、分解整備をしてください。

11. フロアコンベアチェーンの張りと交換

フロアコンベアチェーンの張りはフロアコンベアテンションスプリングの長さで点検します。基準値は125mmです。

フロアコンベアチェーンはデタッチャブルチェーンですので、1リンク毎に交換できます。交換は次の要領で行います。

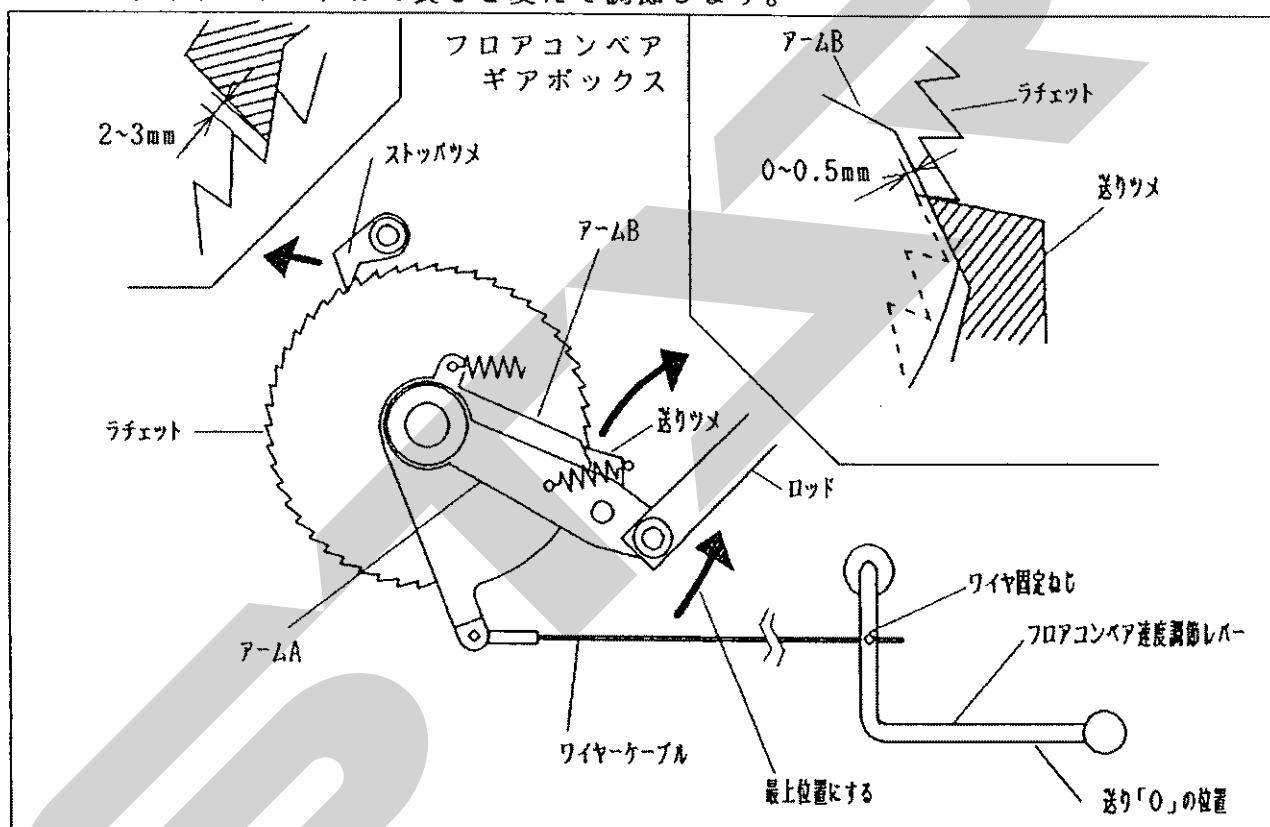
- (1) アイドラ軸のテンションボルトのナットをゆるめ、軸を後方にずらします。
- (2) チェーンを下図のようにずらして交換します。
- (3) テンションボルトを締めつけ、チェーンを張ります。



12. フロアコンベアギアボックスの調整

フロアコンベアの速度がばらつく時、あるいは部品の交換をしたときは、次の調整をしてください。

- (1) フロアコンベア速度調節レバーを「0」位置にします。
- (2) ロッド上側のスプロケットを回してアームAがいちばん上になる位置（ラチェットをいちばん送った位置）にします。
- (3) ストッパツメとラチェットのすきまが2～3mmになるように、ストッパツメを動かして調節します。
- (4) 送りツメとラチェットの間隔が0～0.5mmになるように、アームBの位置をワイヤーケーブルの長さを変えて調節します。

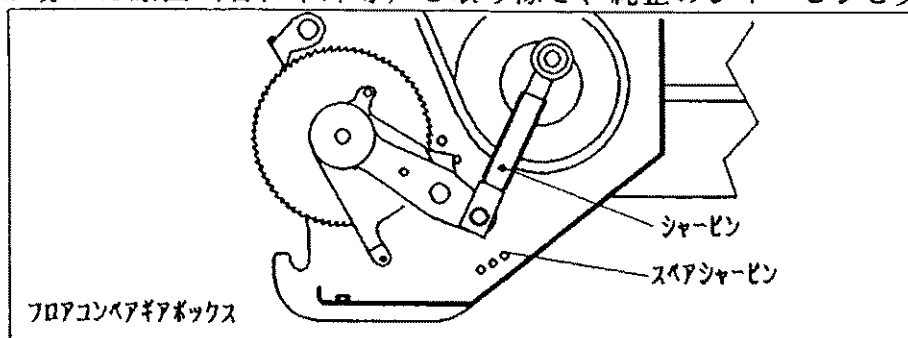


13. フロアコンベアシャーピンの交換

フロアコンベア保護のためにシャーピンが入っています。

シャーピンが切れるとフロアコンベアのみが停止します。ビータは停止しません。

シャーピンが切れた原因（石、木片等）を取り除き、純正のシャーピンと交換します。



14. 燃料ホース

燃料ホースにひび割れや損傷がないか、ホースバンドの緩みがないか、作業前毎に点検してください。

燃料が漏れると火災等の思わぬ大事故を引き起こすことになりますから注意してください。

15. 電気系統

ライト、ウィンカ、ホーン等が正しく作動しない場合は、電気系統を点検してください。

- (1) スイッチの不良
- (2) ターミナル、結線部のゆるみ
- (3) 電球切れ
- (4) ヒューズ切れ 交換ヒューズ
 - ・ 20A管ヒューズ (パネル)
 - ・ ヒュージブルリンク (エンジングローブラグ)
- (5) バッテリーあがり

バッテリー



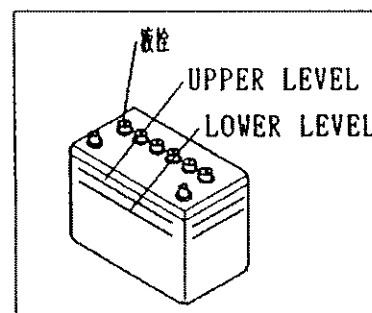
- ・ バッテリーの点検、充電時は火気厳禁です。
- ・ バッテリー液は希硫酸で危険です。皮膚や服、車体に付けないでください。もし付いた場合は、直ちに多量の水で洗ってください。守らないと、火災、やけどをしたり、服が破れるおそれがあります。

電解液の量

電解液の量が少ないとバッテリーをいため、多すぎると液がこぼれて車体をいためます。

液量はバッテリー外箱に2本の横線 (UPPER-LEVELとLOWER-LEVEL) の間になるように蒸留水を補給します。

バッテリーには6個の液槽がありますから、どの液槽も同じ液面にしてください。



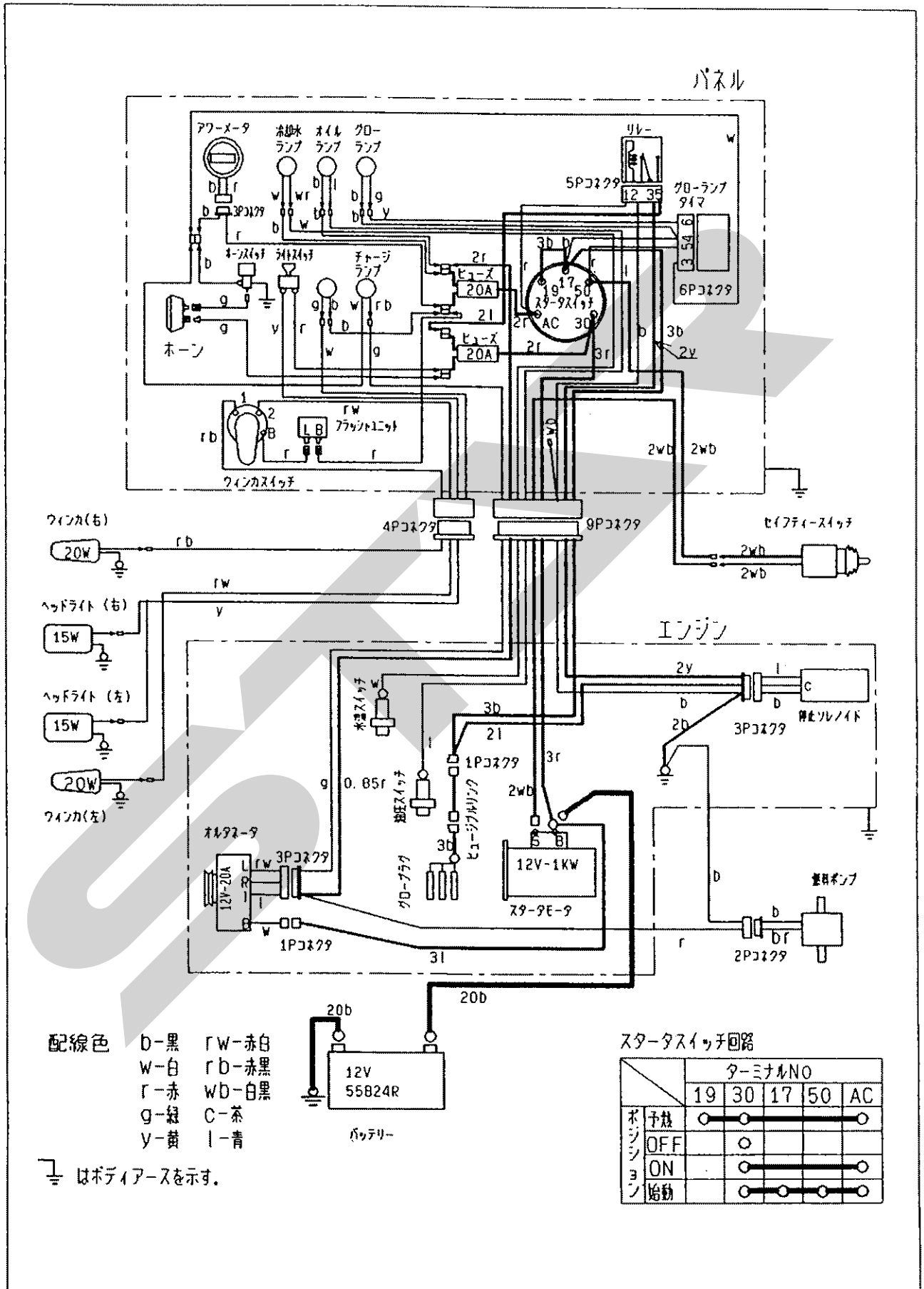
補充電

バッテリーに蓄えられた電気量が減ってくると、エンジンが始動できなかったり、ライトが暗くなってきます。この状態になる前に補充電を行ってください。

[取扱いの注意]

- ・ 長期間格納する場合は、バッテリーを車体よりおろし液量を調整してから充電し、日光のあたらない乾燥した場所に保存してください。
- ・ バッテリーは保存中でも自己放電しますから、1ヶ月に一度は補充電を行ってください。

電気系統図



16. エンジン

燃料系統のエア抜き

燃料系統に空気が混入しますと、始動困難やエンジン不調の原因になります。

燃料タンクを空にした場合、また燃料フィルタの交換等を行った場合には、エア抜きが必要です。

本機のエンジンは自動エア抜き仕様ですので、特別の操作は必要ありませんが、再始動の際は次のようにしてください。

- (1) スタータスイッチを「ON」にして、約30秒待ちます。
- (2) 始動操作をしてください。

[取扱いの注意]

- ・エア抜き後も、燃料フィルタに一部エアが残る場合がありますが、異常ではありません。

冷却水

本機納入時は、凍結温度-15度相当の混合比のロングライフクーラント（LLC）を入れてあります。

ラジエータフィンの清掃

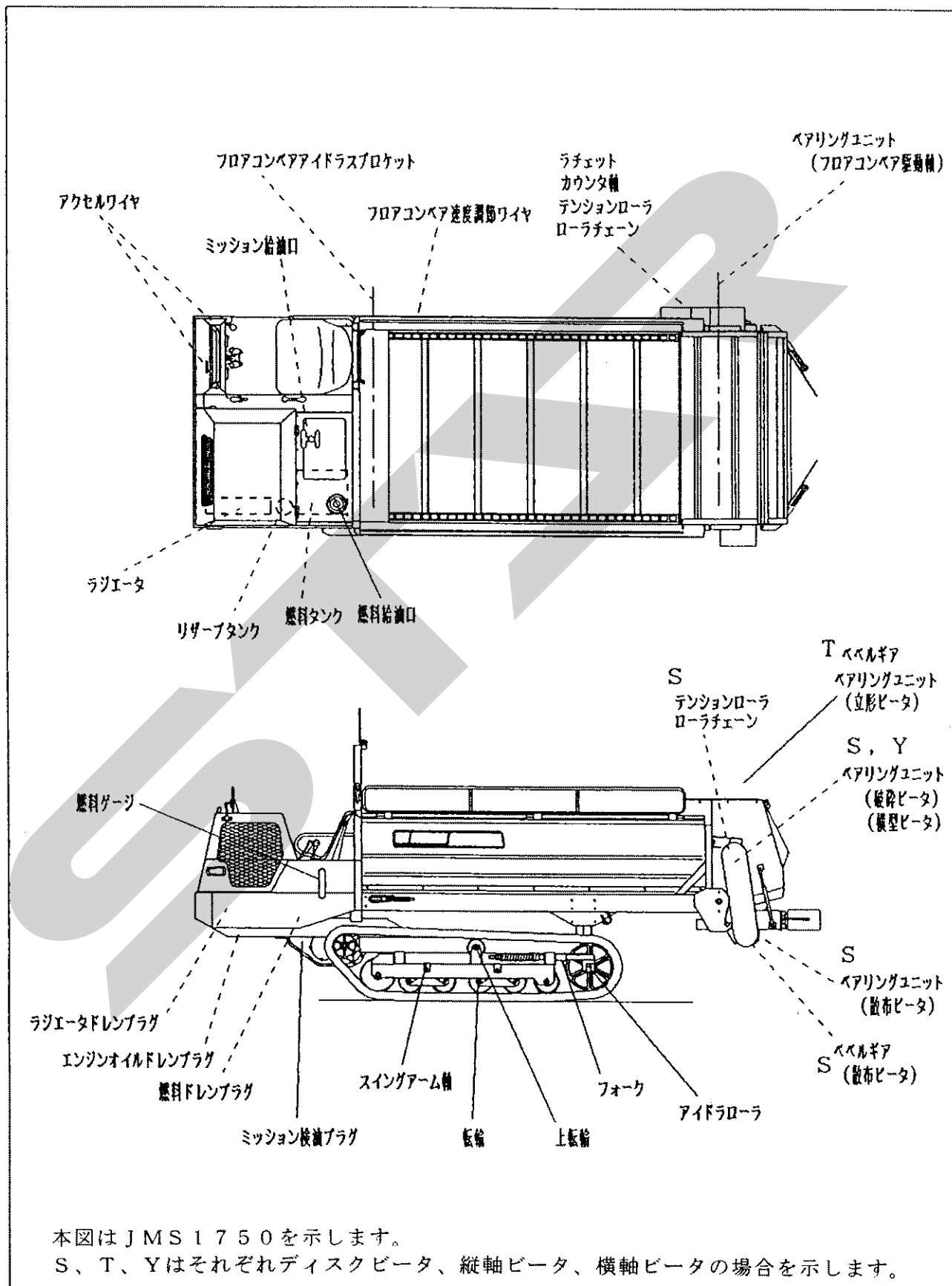
ラジエータフィンに泥や枯草等が詰まると、空気の流れを妨げて冷却効率を異常に低下させ、オーバーヒートの原因となります。

100時間毎にエア、圧力水等により清掃してください。

その他の詳細はエンジン取扱説明書をごらんください。

17. 給油脂類

給油脂箇所



推奨油脂

本機に使用する油脂類は次のものを推奨します。

油 脂	規 格	使用箇所および油量
グリース	万能グリース	転輪，上転輪，アイドラローラ スイングアーム軸，フォーク ベベルギア（ディスクビータ・縦軸ビータ仕様） ローラチェーン ベアリングユニット ラチェット
マシンオイル	マシンオイル#120	フロアコンベアアイドラスプロケット アクセルワイヤ，テンションローラ 各リンケージ
ミッションオイル	ギアオイル#90 GL-4	ミッションケース 8.5リットル
エンジン オイル	エンジンオイル D10W-30 CC級以上	エンジンクランクケース 3.5リットル
燃 料	JIS2号軽油 （寒冷時は3号軽油 または特3号軽油）	燃料タンク 25リットル
冷 却 水	水道水， ロングライフクーラント （最低気温に応じて 混合割合をきめる）	ラジエータ，リザーブタンク 5.3リットル

〔取扱いの注意〕

- ・アクセルレバーの根元の摩擦板には注油しないでください。
- ・グリースニップルはウェス等で泥等をぬぐってから給脂してください。

交換した油脂類はむやみに投棄すると公害の原因になりますので、専門の処理業者に依頼するか、油脂購入先にご相談ください。

18. 点検整備基準

特に作業条件が悪い場合は、規定の時間より早めに点検整備をしてください。

○点検 ●交換 △補給 □清掃

作業内容		時期							備考
		作業前毎	作業後毎	20時間毎	50時間毎	100時間毎	200時間毎	500時間毎	
機体部	ボルト、ナットのゆるみ						○		新車時初回5～10時間
	機体の損傷	○							
	ブレーキのきき具合	○							
	油洩れ	○							
	クラッチの遊び	○							
	Vベルトの張り	○							
	ローラチェーン張り				○				
	クローラの張り				○				
	各転輪の動き	○							
	プロコンバチェーンの張り	○							
	散布クラッチの作動	○							
	燃料ホースの損傷、ゆるみ				○				
	バッテリー電解液の量、容量	○							
	ファンベルトの張り	○							
	電装品の作動	○							
	機体の洗浄		□						
給油脂類	転輪、上転輪、アイドラローラ			△					
	各リンク、アクセルワイヤ				△				
	スイングアーム軸、フォーク			△					
	ローラチェーン			△					
	ラチェット			△					
	ベアリングユニット			△					
	プロコンバアイドラスプロケット			△					
	ベベルギア			△					スーパービータ、並ビータ仕様
	ミッションケース							●	新車時初回100時間
	エンジンオイル	○					●		新車時初回50時間
	燃料	△							
	冷却水	○							2年毎交換
フィルタ類	エアクリーナエレメント					□		●	
	オイルフィルタカートリッジ							●	新車時初回50時間
	燃料フィルタエレメント						□	●	200時間毎水抜き
	ラジエータフィン					□			

■故障と対策

ここには、簡単な故障の原因とその対策方法を載せてあります。

もし、機械の調子が悪い時は、この表を参考にしてください。

原因がわからない場合、対策が困難な場合は、早めにお買上げの販売店、サービス工場へご相談ください。

エンジン関係

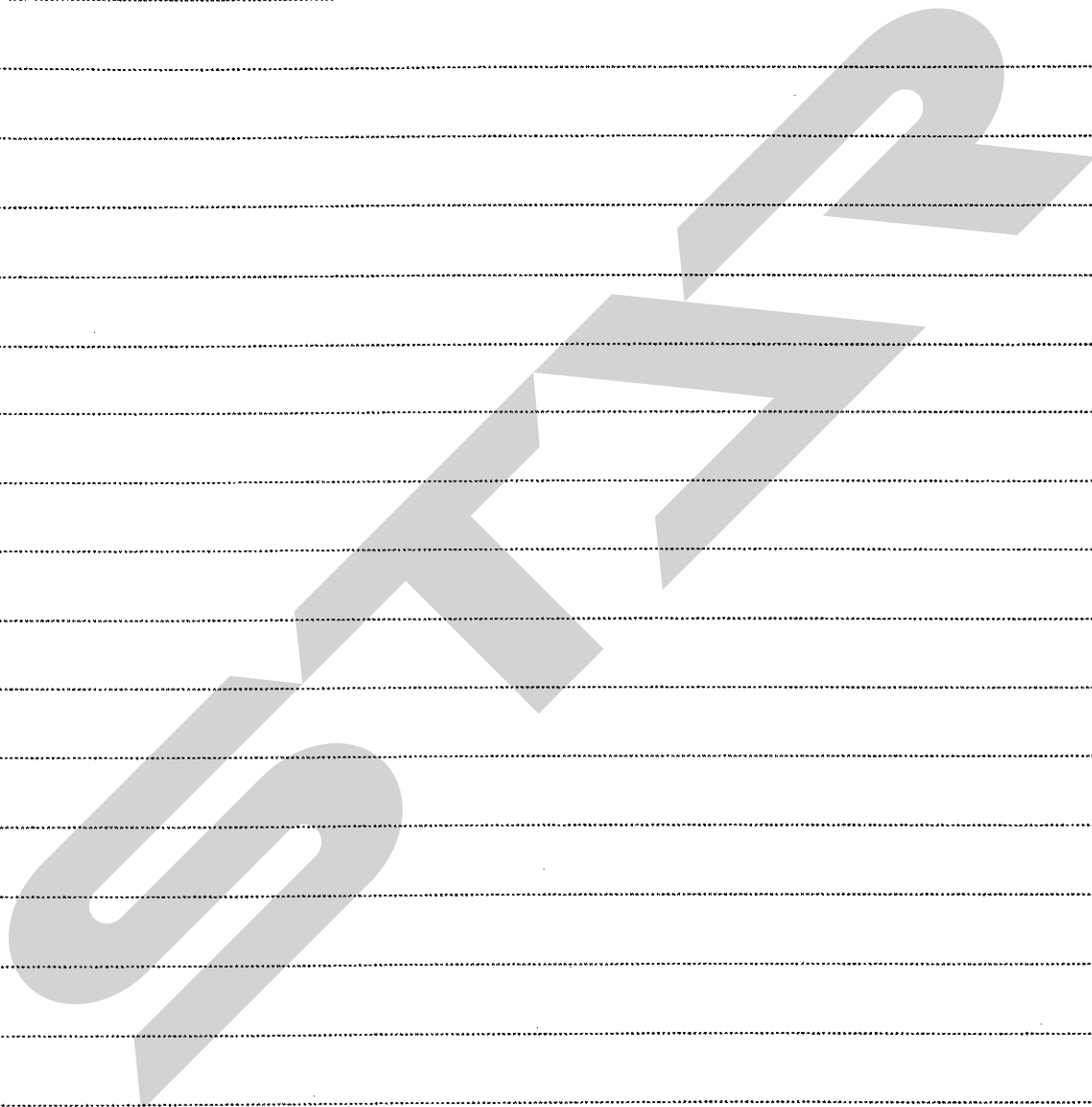
状 況	原 因	対 策
エンジンが始動しない セルモータが回らない	クラッチペダルをいっぱい踏み込んでいない	いっぱい踏み込む
	バッテリー放電	充電する
	セルモータ故障 スイッチの故障 電気配線の断線	サービス工場での修理
エンジンが始動しない セルモータは回る	燃料切れ	燃料を補給する
	グロー不足	グローする
	燃料系統にエア混入	エア抜きをする
	燃料系統の故障	サービス工場での修理
回転が円滑でない	燃料系統にエア混入	エア抜きをする
	燃料フィルタ詰まり	フィルタを交換する
オーバーヒート	冷却水不足	冷却水を補給する
	ファンベルトのゆるみ	ファンベルトを張る
	ラジエータの目詰り	清掃する
	エアクリーナが目詰まり	清掃する
	過負荷	負荷を軽くする
出力不足	アクセルワイヤのゆるみ	調整する
	エアクリーナが目詰まり	清掃する
	燃料系統の故障	サービス工場での修理

走行部関係

状 況	原 因	対 策
走行しない	Vベルトのゆるみ	Vベルトを張る
	クラッチ焼損	クラッチ板交換
	サイドクラッチ摩耗、ギア破損等	サービス工場での修理
	ミッションの破損	
旋回しない	ブレーキのゆるみ	操向レバーの調整
	ブレーキシュー摩耗	ブレーキシュー交換
	サイドクラッチ摩耗、ギア破損等	サービス工場での修理
	ミッションの破損	

散布部関係

状 況	原 因	対 策
ピータが回らない	堆肥の積み過ぎでVベルトがスリップしている	積み込み量をへらす
	ローラチェーンが切れている	部品交換する
	散布クラッチ調整不良	調整する
フロアコンベアが動かない	シャーピンが切れている	交換する
	ローラチェーンが切れている	部品交換する



SPAR

本 社	066-8555	千歳市上長都 1061 番地 2 TEL 0123-26-1123 FAX 0123-26-2412
千 歳 営 業 所	066-8555	千歳市上長都 1061 番地 2 TEL 0123-22-5131 FAX 0123-26-2035
旭 川 営 業 所	070-8004	旭川市神楽 4 条 9 丁目 3 番 35 号 TEL 0166-61-6131 FAX 0166-62-8985
豊 富 営 業 所	098-4100	天塩郡豊富町字上サロベツ 1191 番地 44 TEL 0162-82-1932 FAX 0162-82-1696
帯 広 営 業 所	080-2462	帯広市西 2 2 条北 1 丁目 12 番地 4 TEL 0155-37-3080 FAX 0155-37-5187
中標津営業所	086-1152	標津郡中標津町北町 2 丁目 16 番 2 TEL 0153-72-2624 FAX 0153-73-2540
花 巻 営 業 所	028-3172	岩手県花巻市石鳥谷町北寺林第 11 地割 120 番 3 TEL 0198-46-1311 FAX 0198-45-5999
仙 台 営 業 所	983-0013	宮城県仙台市宮城野区中野字神明 179-1 TEL 022-388-8673 FAX 022-388-8735
小 山 営 業 所	323-0158	栃木県小山市梁 2512-1 TEL 0285-49-1500 FAX 0285-49-1560
名古屋営業所	480-0102	愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字南屋敷 191 TEL 0587-93-6888 FAX 0587-93-5416
岡 山 営 業 所	700-0973	岡山県岡山市下中野 704-103 TEL 086-243-1147 FAX 086-243-1269
熊 本 営 業 所	861-8039	熊本県熊本市長嶺南 1 丁目 2 番 1 号 TEL 096-381-7222 FAX 096-384-3525
都 城 営 業 所	885-1202	宮崎県都城市高城町穂満坊 1003-2 TEL 0986-53-2222 FAX 0986-53-2233